



(第53号)

発行：〒260-0853  
千葉県中央区葛城1-5-2  
千葉県立千葉高等学校同窓会  
同窓会長 林 孝二郎  
TEL. 043-239-5550  
FAX. 043-239-5551  
印刷：有限会社 プリントピア  
TEL. 043-301-6500

ご挨拶



同窓会会長 林 孝二郎  
(昭和39年卒)

千葉高同窓会の皆様、緑がまぶしい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

日頃から同窓会事業にご協力をいただき感謝申し上げます。

今年も新年早々、能登半島で大規模な地震が発生し大きな被害をもたらしました。

亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災地域の復旧と復興が速やかに進むことを心からお祈り申し上げます。被災地の高校生が金沢市内のホテルに2次避難し勉強を続けているとの報道がありました。大正11年の関東大震災の折には本校

も東京横浜等の被災地から67名の転入生を受け入れたとの記録があります。現在、千葉県や南関東でも、大規模地震の危険が伺われております。人口や諸機能が集中しているこの地域での地震

災害の規模は甚大であり、被災者支援、復旧・復興の困難さは想像に難くありません。改めて、日ごからの準備や対策の大切さを痛感した次第です。

昨年の同窓会の活動を振り返ってみますと、コロナウィルス感染の5類移行に伴い、おおむねコロナ前に戻りつつあります。2月の総会・懇親会はアルコール抜き、昼食会という形ですが4年ぶりに開くことができました。1月の成人記念同期会(令和3年

卒業生)や卒業生による中学、高校での講演会も計画通り行うことができました。また、各地の葛城会やOB会、同期会もだんだんと開催できるようになり、本同窓会報にも嬉しいお便りを沢山いただいております。同窓会報については多くの寄付をいただき8000部印刷し、内6050部を会員の皆さんに個別配布することができました。

今年に入って1月には令和4年卒業生の成人記念同期会を実施し、2月の総会・懇親会はアルコールも入った賑やかな懇親会で同窓の親睦を深めるとともに、母校中学校・高等学校合唱部の皆さんの素晴らしい歌声を楽しみました。

さて、話は変わりますが、昨年からは千葉県では県政150周年の様々なイベントが催されています。母校の前身である千葉中学校は千葉県誕生の5年後、明治11年に創立されていますので、今年

で146年目ということになります。現在、キャンパスには様々な建物がありますが、千葉中学校の歴史と伝統を感じさせるものとしては創立50周年の昭和2年(1927年)に落成している講堂が唯一残っております。(懐かしい時計塔のあった校舎は昭和6年に落成しておりますが残念ながらその後新校舎建設にあたり解体されております。)

昭和48年(1973年)ごろのPTA会報には「講堂は現在、卓球や剣道の練習場となっており、やがて取り払われることになっているが、創立95周年を契機として、本校の遺産的文化財として復旧したい」との学校長の文が載っております。体育館が設けられたこともあり、同窓会では、「創立100周年記念事業として講堂を全面的に改修復元し、これを記念講堂とする事業を分担する」ことを決議し募金活動を行いました。昭和53年(1978年)に外装修復と内装工事が完了しております。

以来40年余、現在でも講堂は卒業式などの行事で立派に役割を果たしておりますが、冷暖房設備がないため厳冬や酷暑の時期の利用は厳しいものがあるため、150周年を迎えるにあたり同窓

同窓会報第53号 もくじ

ご挨拶	1
校長報告	2
ご挨拶	3
回顧と展望	3
追悼	4
会報寄付者一覧	4
支部だより	5
OB会だより	8
学年短信	11
チャレンジ基金	18
母校支援報告	19
令和6年度定時理事会・総会報告	19
葛城人脈	22
母校の活動報告/葛城だより	24

会として改善に何らかの協力ができるか、今後皆様のご意見を伺っていきたくと思っております。

古き良き伝統を残しつつ社会の変化に対応して必要な新しい風をいかに取り入れていくか、母校の教育現場ではご苦労が多いものと思えます。同窓会としても母校教育の発展のために引き続き支援を充実していきたいと思っておりますのでよろしくお願います。

最後になりますが、同窓の皆様のご健勝と各地域等での交流が以前に増して活発化することを祈念するとともに、本年も同窓会の運営に変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

県立千葉中学校・高等学校近況



前校長 佐藤 晴光

千葉県高等学校同窓会の皆様には、日頃から物心両面からの温かい御支援を賜り、心から感謝申し上げます。令和四年度に着任して、二年目の勤務となりました。

まず初めに、同窓会の皆様にお礼を申し上げます。昨年度の本会報でもお願いしましたが、千葉県立学校チャレンジ応援基金への御協力ありがとうございました。残念ながら予定額には届きませんでした。また、この後、海外研修への補助にも当てさせていただきました。御協力いただいた皆様は、改めて御礼申し上げます。また、総合的な探究の時間に行っている外部講師講演会や、千葉

中の社会人講演会のほか、修学旅行時の講演や座談会、大学訪問時の案内等々、本当にお世話になりました。

さて、新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着き、日常の教育活動が戻ってまいりました。

行事関係では、中学校の海外異文化交流を、コロナ前と同じポストンで実施することが可能となりました。ただし、昨今の円安ドル高、物価高騰の影響で、コロナ前とは比較にならないほど高額となっております。御家庭の負担軽減を一層考えねばならない状況にあります。そこで、先にお願ひした県立学校チャレンジ応援基金の募集期間を延長させていただきます。改めて同窓生及び関係各所の皆様方の御協力を、切にお願いいたします。

部活動等においては、生徒たちは今年度も大変頑張っています。

す。まず弓道部です。団体では女子が令和五年度第六十七回関東高等学校弓道大会に出場、このうち一名が技能優秀の栄に輝きました。また、第四十二回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会に男子一名、女子一名が出場しました。さらに特別国民体育大会(もゆる感動鹿児島国体)少年女子の部に女子一名が参加し、第五位という素晴らしい成績に貢献しました。続いて山岳部です。県総体で優勝し、北海道で行われた令和五年度全国高等学校総合体育大会登山大会に出場しました。続いて将棋部です。

第三十六回全国高等学校将棋竜王戦千葉県大会B級優勝、第三十四回関東地区高等学校文化連盟将棋大会出場、なお、石川県で開催予定だった第三十二回全国高等学校文化連盟将棋新人大会は、先の能登半島地震により中止となりました。次に囲碁部です。第四十七回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会に出場し、団体戦で全国六位となりました。次に書道部です。第四十七回全国高等学校総合文化祭書道部門に出場しました。ま

た、第三十五回千葉県高等学校総合文化祭書道作品展で優秀賞となった生徒が、令和六年度の全国大会に出場予定です。次に合唱部です。令和六年度同窓会総会の席にお招きいただき、その歌声を披露させていただきましたが、第七十八回関東合唱コンクール高等学校部門Aグループに千葉県代表として参加し銀賞受賞、また、三月九日に行われる第十三回関東ヴォーカルアンサンブルコンテストに出場いたします。続いて地理部です。地理部はオリエンテーリングでの活躍が際立っています。ジュニア世界オリエンテーリング選手権出場、アジアジュニアユースオリエンテーリング選手権大会出場、全日本オリエンテーリング選手権大会ミドルディスタンス競技部門M一八A優勝等、国内外で躍動いたしました。この他にも多くの生徒が様々な分野で活動しており、千葉中高生の持つ能力の高さには驚かされるばかりです。

生徒が全国を股に掛けて活躍すればするほど足りなくなるのが、旅費や宿泊費です。近隣の

学校を調べさせていただいたところ、ほとんどの学校が全額補助しているとのことでした。本校も県大会を含めすべて全額補助していましたが、今年は活躍目覚ましく、途中で尽きてしまいました。頑張った生徒が不利益を被ることはあってはならないと思います。こうしたお金は受益者負担だ、というお考えもあるのかとは思いますが、生徒が安心して全国を飛び回れるよう、例えば学校全体の後援会を立ち上げる等、何らかの手立てが必要な時期に来ているのではないのでしょうか。令和六年二月三日の同窓会総会の折りにも皆様に申し上げましたが、全国に名だたる伝統校の一員として輝き続けるためにも、是非皆様方のお知恵をお借りし、よりよい学校経営をいたしたいと存じます。

私ども教職員一同、本校が千葉県のフラッグシップ校として在り続け、全国に千葉高在りと発信できるよう、尽力してまいりますので、同窓生の皆様方には、一層の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げます。

# ご挨拶



## 校長 高梨 祐介

この度の人事異動で、令和6年4月1日に千葉県立千葉高等学校に着任しました校長の高梨祐介です。前年度までは、県立千葉東高等学校で校長として勤務していました。校長としては2校目の勤務となります。3月末に本校への内示を受けたときは、歴史と伝統のある本校での勤務は大変誇らしものである反面、その責任の重さに身が引き締まる思いでした。同窓生の皆様方の期待に応えられるよう一杯尽力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、現在私たちを取り巻く社会の変化は加速度を増し、少し先の未来さえ予測することが困難な時代となっています。

国は2030年、2050年の産業構造の転換を見据えた、今後の人材政策について検討す

るために「未来人材会議」を設置し、雇用・人材育成から教育システムに至る政策課題について、議論し取りまとめ、「未来人材ビジョン」(経済産業省・令和4年5月)を公表しました。その内容は、社会システム全体を見直す方向性として、「旧来の日本型雇用システムからの転換」、「好きなことに夢中になれる教育への転換」の2点を軸にまとめられています。

その中で、これからの時代に必要なスキルは、基礎能力や高度な専門知識だけでなく、デジタル化・脱炭素化という大きな構造変化により、人の能力等のうち、例えば、現在は「注意深さやミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されていますが、将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」がより強く求められるとしています。まじめにミスがなく仕事をすることはとても大事なことです。それ以上に、自ら問題を発見したり、

今後の社会の動向を的確に予測したり、前例のない新しいことを始めたりする力を持った人材を社会が必要としています。

また、次の社会を担う若者世代に対しては「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」、「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」、「グローバルな社会課題を解決する意欲」、「多様性を受容し他者と協働する能力」が、求められています。

学校教育においても、知識の習得はもちろんです。例えば、「答えのない」社会課題や身近な生活課題について、他者との対話を通して、協働的な学びを行うなど探究力を磨いたり、好きなことにのめり込んで豊かな発想や専門性を身につけ、他者と協働しながら、新たな価値を創造し、新しい発見や解を生み出したりすることが求められています。

本校での学びを通して生徒一人ひとりが、社会の変化に主体的に向き合い関わり合い、自らの可能性を存分に発揮し、社会で活躍できるように、教職員一同一杯取り組んでいきます。

# 回顧と展望



## 葛の花会会長 永田 忠以

(昭和37年定卒)

これまでも会報では、自身の高校時代の思い出話を記す機会を頂戴していますが、今回も相変わらずの昔話にお付き合いいただければ幸いです。

私が通学していた時分の昼間部の生徒は、男子のみしか在籍しておらず、制服は袴詰めに学帽をかぶっておりました。夜間部(定時制課程)の現役で入学した生徒は昼間部と同様でしたが、夜間部には様々な生徒が通学しており、女性は私服で、自衛隊勤務や勤労学生は仕事着などで登校していました。今では現役生の通学姿を見かけると、それぞれに適した制服の着こなしをしているように思われます。

さて話は変わりますが、昼間部を卒業した生徒に対する同窓会は存在していましたが、私が夜間部に在籍していた当時は夜間部卒業生に対する同窓会組織というものがありませんでした。

そこで、昼間部同様に夜間部の同窓組織を立ち上げようということとなり、まずは「十日会」という会を立ち上げ、それが後に「葛の花会」という会へと発展していった次第です。それからしばらくすると、夜間部の卒業生も昼間部の同窓会に参加できるようになり、多くの交流の場を持つようになりました。

しかし定時制の閉課以降、「葛の花会」には新規の卒業生が入会することもなくなり、また高齢化により会員も極めて少なくなっているのが現状です。ゆえに「葛の花会」としての同窓会開催はせず、千葉高同窓会への参加に一本化することも検討していく段階にきているかと思われ。ただ会員の中には、一人になっても頑張ることを存続させたいという方もおります。私も齢八十歳を過ぎてきていることもあり、「葛の花会」という名をいつまで散らすことなく咲かせ続けられるかはわかりませんが、先人達の想いと同窓生の想いを考えると判断に迷うところではあります。

# 鈴木一郎前会長の逝去を悼む

同窓会事務局長 阿佐幸雄  
(昭和35年卒)

平成26年から3期6年会長を務められた同期の鈴木一郎さんが、昨年9月30日に逝去されました。彼とは中学から一緒でしたが、同じ組になったこともなくて交流はなく、平成3年にライオンズクラブで一緒に活動するようになって親しくなりました。平成22年に副会長になり、千葉中学校併設で課題となっていた「新運動場整備事業」では、3年越しで7721万円の寄付を集め、人工芝の第2運動場を完成させました。平成26年3月30日に雨の中、記念碑の除幕式を行った日を思い出します。

在任中の功績は、この他に事務局室の整備と会報の個別配布により、寄付の文化を育てたことです。多くの方が同窓生から会費を徴収すべきだと言われる中で、彼は会報を送ることで同窓生の中に寄付文化が育まれるはずだと言って、過去に寄付された賛同者へ同窓会報と振込用紙を送りました。

手始めに送った平成28年の45号は1500部で107万3千円のご寄付をいただきました。その結果に力を得て、その後少しずつ発送数を増やし、昨年の令和5年の52号は6050部を送り126万1千円のご寄付をいただいています。彼の望んだ通りに千葉高同窓会に寄付の文化が育ってきています。



同窓会が大好きになった彼は会報の題字も変えています。どうかこれからも同窓会を温かく見守ってください。  
合掌

## 会報寄付者一覧

1万円以上の寄付者名は太文字  
(敬称略・卒年順)

- 昭和36年卒 同期会  
 斎藤 喜久三 中江 利忠 高長谷 禮司 能勢 仁  
 大塚 徳彦 中村 作二 相京 溥士 仁茂田 豊生 松本 啓  
 秋元 孝子 川崎 房枝 中村 浩紹 埴 登志也 吉田 千世子  
 宮田 正胤 宮原 末男 山下 庸明  
 赤塚 光朗 安達 厚見 小野 彌榮 山中 洋介  
 高橋 宏正
- 【昭和32年】 浅野 尚 小田 礼子 瀨田 寛子 松丸 秀邦  
 【昭和33年】 磯貝 正治 伊藤 俊介 榎本 敦夫 大塚 英夫 大和田 恭夫 片野 武 川島 一郎 佐久間 邁 瀨山 俊一 高仲 達也 土屋 富士雄 宮崎 五三夫 村雄 弘尚  
 【昭和34年】 会田 宏三 荒木 三喜子 小林 英夫 長島 滯 米田 喬  
 【昭和35年】 安藤 理 木下 宣 川添 世 茂田 徹 嶋崎 裕志 鈴木 一郎 高橋 恒久 鶴岡 武彦 富澤 誠二 和田 桂子  
 【昭和36年】

## 同窓会報の個別配布・寄付状況

年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
会報号数	第52号	第51号	第50号
発行部数	8,000	7,500	6,500
個別配布数	6,050	5,300	4,000
寄付人数	194	230	231
寄付金額	1,261,500	1,411,000	1,471,000

※ 本年の第53号は、8,500部発行、個別6,500部の予定

- 伊藤 康史 北島 正英 守 正英 大野 岑生 駒井 隆一 辻元 洋一 中野 義澄 堀野 雅子 間山 素行 宮原 忍 宮本 四洲雄 山本 康昭  
 【昭和39年】 石橋 明子 伊東 文彦 今村 隆治 上平 治夫 大東 宏子 市肥 哲弘 長谷川 利弘 林 孝二 武藤 雅彦 村杉 敏彦  
 【昭和40年】 矢口 雅二 山田 勝行 伊澤 浩美 磯村 喜一郎 板倉 兼六 伊藤 成彦 伊藤 民江 宇田川 光茂 葛西 光一 沢田 榮一 椎名 正剛 樋田 英剛 仲田 正躬 林 智代 藤倉 美智 和田 正民  
 【昭和41年】 井坂 浩一 御園 一彦 今井 和彦 西川 哲男 平岡 映子 矢澤 孝文 金子 昇  
 【昭和42年】 久保田 光一  
 【昭和43年】 鈴木 光一 松崎 光一 宮内 仁  
 【昭和44年】 坂井 直樹 左官 治郎 土屋 純 富永 正道 長谷川 博 羽田 達夫 林平 真一郎 藤浦 健夫 松浦 正美 箕輪 正茂 森 茂  
 【昭和45年】 市原 豊 齊藤 清高 高倉 史朗  
 【昭和46年】 浪方 日出男 岡 真 小宮 敏彦 櫻井 英津子 高崎 正雄 種谷 和信 湯川 昌彦 佐藤 鼎  
 【昭和47年】 鶴澤 実治 川島 文代 西原 美穂子 平岡 映子 矢澤 孝文 金子 昇  
 【昭和48年】 足立 知也  
 【昭和49年】 須田 孝 滝口 哲夫  
 【昭和50年】 奥田 桂子 須藤 輝男  
 【昭和51年】 池上 為一 小口 学 児玉 信一  
 【昭和52年】 小河原 賢一 森塚 伸  
 【昭和53年】 白井 護  
 【昭和54年】 甲斐 修司 川原 知広 宍倉 千代子 山田 千代子  
 【昭和55年】 土屋 保之  
 【昭和56年】 鈴木 洋人 三浦 亜紀 鈴木 敏彦 小池 靖 古瀬 耕司  
 【昭和57年】 三山 正信  
 【昭和58年】 鎌田 憲明 松尾 伸之  
 【昭和59年】 石川 直人 諏訪 園 靖  
 【昭和60年】 北條 聖也  
 【昭和61年】 藤岡 駿 山口 弥 佐々木 雄飛 小澤 聖奈 守田 匠吾 宇田 怜 藤岡 玲雄 齋藤 宏樹 金澤 宏樹 藤岡 玲雄 藤岡 玲雄  
 【昭和62年】 橋本 幹彦  
 【昭和63年】 小林 和貴 清水 翔  
 【昭和64年】 石井 智大  
 【昭和65年】 依田 美佐恵  
 【昭和66年】 今井 茉理  
 【昭和67年】 坂本 敦史  
 【昭和68年】 高柳 真敏  
 【昭和69年】 中田 弥生 佐藤 雅信 稲田 惠美 武田 真一  
 【昭和70年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環 須藤 環  
 【昭和71年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和72年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和73年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和74年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和75年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和76年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和77年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和78年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和79年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和80年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和81年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和82年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和83年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和84年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和85年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和86年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和87年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和88年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和89年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和90年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和91年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和92年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和93年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和94年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和95年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和96年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和97年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和98年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【昭和99年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環  
 【令和00年】 岩佐 達樹 須藤 環 西田 奈緒 西田 奈緒 須藤 環 須藤 環

# 支部だより

## ☆長生茂原葛城会

会長 菅原黎明

(昭和36年卒)

### 『長生茂原葛城会報告』

令和5.10.7(土)PM5

令和元年に始まったコロナ感染症は全国的に猛威を及ぼし、私たちの会も中止を余儀なくされました。令和5年に入りようやく規制が解かれましたので、私たち長生茂原葛城会は令和5年10月7日に千葉高等学校同窓会の戸谷久子副会長をお招きして第65回長生茂原葛城会を開催しました。山口光清さんの司会で始まり、開会の挨拶後、長生茂原葛城会の会長改選の動議がな



され、新会長に菅原黎明氏が推選され全員の賛成により決定されました。菅原新会長の新任の挨拶の後、戸谷久子千葉高等学校同窓会副会長の挨拶と現在の千葉高等学校の現状の報告がなされ、さらに元千葉県立千葉高等学校同窓会会長の鈴木一郎先生が令和5年9月に急逝されたことが報告されました。過去に

私たち長生茂原葛城会総会に何度も出席していただいた鈴木一郎先生の穏やかな面影を思い出すとともに、鈴木一郎先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。その後山口光清事務局長より令和1年から4年度までの会務報告が説明され承認されました。全員の集合写真の撮影後、懇親会が開かれました。懇親会に先立ち令和1年から4年までの3年間に逝去された3名の会員(佐川勝也さん、中島満さん、及び西ヶ谷邦正さん)と鈴木一郎元同窓会会長に対し、献杯を捧げご冥福をお祈り申しあげました。その後長生茂原葛城会の益々の発展を祈念して乾杯をし、懇親会が始まりました。各自の自己紹介がなされ、3年間のブランクがあったためか内容の濃いものであり、面白い逸話もあって楽しい時間もアツという前に過ぎていきました。会の最後に藤井誠さんの音頭で旧制千

葉中学校校歌及び現千葉高等学校校歌を斉唱して和気あいあいの内に会を終了しました。

## ☆東京葛城会

事務局長 桑野雄一郎

(昭和60年卒)

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度以来中止となっていた東京葛城会の総会・懇親会でしたが、令和5年10月13日(金)、上野精養軒において4年ぶりに開催することができました。

本来の幹事学年は昭和62年卒でしたが、久しぶりの開催ということで幹事会のメンバーにて運営を行いました。

久しぶりの開催ということでご来賓の林同窓会長様をはじめとする合計79名もの参加をいただきました。

特に従前行っていたアトラクション等は用意いたしませんでしたが、その分、久しぶりに懐かしい顔ぶれが揃い、対面で飲食を共にし、時間をかけて旧交を温めることができました。

本年の東京葛城会の総会・懇親会も、上野精養軒において、10月11日(金)に開催する予定です。既に会場の予約も済ませておりますので、奮ってご参加いただきたくお願い申し上げます。なお、会費につきましては物価高騰

を受け、1万2000円を予定しております。

全体同窓会が通常どおり開催されたのを受け、東京葛城会としても本来の幹事学年を中心とした運営ができるようにしてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、母校の教職員の皆さま、生徒及びご家族の皆さまのご健勝をお祈りしております。卒業生として、また東京葛城会として、できる限りの母校への支援をしていきたいと考えております。

## ☆養信会(市原支部)

会長 鈴木雅博

(昭和33年卒)

令和六年は年明けから能登半島地震が発生しました。日常の安心・安全を改めて深く考えるとともに、被災地の早い復興を願ってやみません。

さて、養信会の開催が、大変長い間できていないこと、新型コロナが五類となり、千葉高同窓会の総会も平常どおり開催され、様々な会合が日常的に行われるようになってきたことから、昨

年秋に養信会の主要メンバーで相談し、本年六月八日(土)に養信会総会を五井グランドホテルにて開催することと致しました。

今後、総会の詳細を検討し、開催のご案内等を進める予定です

す。充実した集いとなりますよう、是非ご参加ください。

ところで、これまで市原市に関わるエピソードなど、同窓会報でご案内して参りましたが、特に昨年は、千葉県政百五十年、市原市市制六十周年の節目の年でもあり、それを記念するイベントも市内各地で開催され、千葉県も市原市も様々な分野で発展し、商業、工業、農業など、これまでの千葉県及び市原市の歩みを振り返る良い機会となりました。今年も引き続き様々な行事が企画されていますので、市原市へ足を運んでくださるようお願い致します。

最後に、誰もが安心・安全の日々を送れますよう、皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。

## ☆東金葛城会

会長 佐久間 邁

(昭和33年卒)

令和五年のNHK大河ドラマは「どつする家康」でしたが様々な評価の中で終了しました。ところで皆さんは徳川家康が私達の町東金に鷹狩に訪れたのをご存じだったでしょうか。

今から四百年以上昔の慶長十九年とその翌年の元和元年の二回ですが、最初の慶長十九年一月の鷹狩の後、十一月に大阪

冬の陣が起こり、翌慶長二十年四月に大坂夏の陣が起き、五月に豊臣氏が滅びます。そして、改元により元和となり、その十一月に家康公は再び東金に鷹狩に訪れています。

徳川政権にとって大事なこの時期になぜ東金に鷹狩に来たのか。また、これに先立つ慶長十八年十二月に急遽、東金鷹狩の為、船橋御殿からお茶屋御殿(千葉市金親町)そして東金八鶴湖畔の東金御殿(現県立東金高校)までほぼ直線に近い道のりの東金御成街道の築造工事を命じています。永らく伝聞により「三日三晩で作られた御成街道」と伝えられてきましたが慶長十九年一月の第一回御成りには間に合わなかったようですが、なぜそんなに急いだのでしょうか。

東金市郷土研究愛好会(会長・木村卓先輩・昭和31年卒)では、今回、東金文化会館常設展示室において「徳川家康と東金



御成街道」と題して企画展示会を実施しております。期間は今年の秋までの約一年間です。

新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなってきたており、同窓会の開催が期待されております。今年こそは、東金の歴史や文化について、美酒佳肴を前に話の花を咲かせたいと思います。

### ☆成田葛城会

幹事長 岩下豊久  
(昭和42年卒)

二月三日の節分に会報原稿を書いています。明日は立春、春の足音が聞こえてくるようです。

令和六年が輝かしい昇龍の年になることを願っております。二年前の二月から始まったロシア・ウクライナ戦争、昨年の十月から始まったイスラエルとハマスの戦闘は停戦の見通しも立たず継続しております。日本では元日の能登半島地震、翌日の羽田空港における航空機事故と甚大で痛ましい事故がおきました。願いと裏腹に先行き不安な年明けとなっております。

さて、成田葛城会はコロナ感染症の影響で令和二年から五年まで四年間開催しておりません。令和五年には開催を考慮しておりますが、八月中旬に開催された千葉高昭和四十二年卒同

期会に参加した翌日からコロナを発症し年内体調が優れず開催準備ができませんでした。そして、令和六年を迎えましたが、一月下旬から体調を崩し入院となり、病室でこの原稿を書いていくところでした。

成田葛城会は平成十五年に発足しましたが、元々の会員数が少なく、開催する都度に亡くなる方が続き、前回令和元年開催時の会員参加者は十二人でした。四年間のプランクで参加者が更に減ることも予測されますが、年内の開催に向け、松田会長と相談を始めたところです。一人でも多くの参加があることを願っております。

### ☆千葉葛城会

会長 池田知行  
(同窓会副会長、昭和54年卒)

千葉葛城会の第12回総会は、令和5年(2023年)10月7日にホテルポートプラザ千葉において61名の出席者を得て開催されました。コロナ禍をはさみ、前回の令和元年(2019年)7月から4年ぶりの開催でしたが、この間に亡くなられた元会長の千葉滋胤先輩(昭和26年卒)をはじめ、物故された方々に黙

祷を捧げた後、本間充武会長(昭和38年卒)の開会挨拶があり、総

会議事へと移りました。過年度の事業報告・会計報告があった後、令和5年度の事業計画・予算案が承認されましたが、同時に役員改選もあり、新会長に池田知行(昭和54年卒)、新副会長に大澤正明(昭和55年卒)および吉田節子(昭和57年卒)、新事務局次長に岡田修一(昭和58年卒)の各氏が就任し、留任する事務局長の阿佐幸雄(昭和35年卒)、会計の浅賀禎久(昭和60年卒)の各氏とともに新体制で会を運営していくこととなりました。

懇親会においては新会長の挨拶の後、千葉大学合唱団・松下中央合唱団で活躍された石橋実先輩(昭和38年卒)に京都から駆けつけて頂き、武井典子さん(昭



和59年卒、船橋葛城会世話人)のピアノにより「日本歌曲の情趣を愉しむ」と題して、「野菊」、「待ちぼうけ」、「出船」の3曲が見事なテノールで披露され、大喝采を浴びました。また前回に引き続き、「母校の歌を歌う」会へと移行し、池田新会長も加わって「旧制中学校歌」はじめ、「戦歌」、「凱旋歌」、「逍遙歌」など7曲を出席者と歌い、母校に伝える歌を学び、また思い出し、最後は、武井さんの伴奏により新制高校校歌を全員で歌って散会となりました。

千葉葛城会では千葉市・隣接市に在住・在勤の同窓生の皆さまの多くにご入会いただき、活動をさらに盛り上げていきたいと考えております。ご参加、ご協力のほど、是非ともよろしくお願いたします。

### ☆船橋葛城会

会長 中山泰正  
(昭和42年卒)

船橋葛城会は従来の活動に戻り、令和5年6月11日に市川市の山崎製パン企業年金基金会館、陽光の間にて、40名程の参加者により開催されました。開会に先立ち、恒例のミニ講座には、開運!なんでも鑑定団でお馴染み、昭和42年卒の増田孝さんによる、明智光秀の娘婿細川忠興

の手紙を用いた古文書講座を開きました。四百年以上も前の本物の手紙文を御持参いただいた為、閉会后ホテルのスタッフ達が写真を撮りに来た程です。会の後半のお楽しみ抽選会は松尾芭蕉の俳句カルタを使ったゲームで進めました。上の句だけで下の句が瞬時に判る人もいて、さすが母校の出身者だと感心しました。

10月29日には神田川と日本橋散策を企画し、20名程が参加されました。船で日本橋→一ツ橋↓水道橋↓浅草橋↓日本橋へとガイド付きの旅、陸では三井タワー、福富神社、日本橋三越本店、貨幣博物館等巡りました。その途中も古くて新しい街を発見しました。

今年は5月26日に船橋葛城会を昨年同様、市川市の山崎製パン企業年金基金会館にて開催いたします。ミニ講座は北極や南極観測隊を同行しての取材や東西ドイツ統一の取材で活躍された、昭和59年卒の中山由美さんのお招きを予定しております。又3月31日は佐倉葛城会の山田会長先導による佐倉の街花見散策を計画しています。

最後に我々船橋葛城会は現役中高生の活動を陰ながら応援したいと考えております。

### ☆佐倉葛城会

事務局長 荒井茂夫  
(昭和45年卒)

令和5年度、佐倉葛城会の総会を昨年12月10日、市内新町川瀬屋にて4年ぶりに開催することができました。昨春の5類移行に伴い経済活動も活発になり、皆さん外出する機会も多く、各種イベントへの参加が増えた模様です。総会欠席の理由としては、12月は忘年会や他のイベントが入っておりスケジュール調整ができない、との回答が多かったようです。(ゴルフのスケジュールが入っている為欠席の方が多かったようです)

総会は例年通り、来賓の阿佐千葉高等学校同窓会事務局長および山田佐倉葛城会会長の挨拶に続き、今回はお二人の医師に講話をいただきました。ちなみ



に、私の主治医は昭和45年卒佐倉市在住の同級生です。お題目は「コロナ禍での生活の変化、最近のコロナ状況」を内田先生(内田医院院長)、「地域医療と医師会」を菅谷先生(すげのヤクリニック院長)にお願いいたしました。時期的にもタイムリーで皆さん興味深く拝聴しており多くの質疑応答がありました。

佐倉葛城会もおかげさまで今回19回目の総会を開催することができました。現在、佐倉葛城会のメンバーは昭和27年〜昭和52年卒業と幅広く、毎回30名前後の方が参加しています。今回は昭和52年以降の方にも参加していただきたく、案内状を例年の3倍発送いたしました。千葉高等学校同窓会事務局より同窓会報「支部だより」も昨年より郵送が開始されたとの事で、これ

を機に是非佐倉葛城会への参加をお願いできればと思います。

### ☆千友会

(千葉県庁千葉高同窓会)

幹事長 高梨みちえ  
(昭和58年卒)

今年元日の能登半島地震でお亡くなりになった方にお悔やみを申し上げるとともに、被災された方にお見舞い申し上げます。千葉県からも県庁職員、市町村職員、医療・福祉関係等の方々が、継続的に被災地支援に現地に入っております。

災害は時と場所を選ばない、とわかってはいるものの、行政職員として、千葉県でもし発生したら、と考えずにはいられません。

さて、千葉高を卒業した千葉県庁職員による「千友会」ですが、令和元年の台風・大雨による影響で総会を延期(のち中止)して以降、新型コロナウイルス感染症により活動停止が継続しております。新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類に移行し、3年超に及ぶ様々な制限・自粛が解除され、日常が戻ってきていますが、千友会の活動は長期の活動のブランクによる影響が大きく、どこから手を付けてよいかという状況で、幹事として忤たる思いしております。

令和6年度は、順次活動を再開し、毎年度の総会開催などがスムーズに行えるような体制にできないか考えていきたいと思っておりますし、県庁において新型コロナウイルスの影響でやや薄くなったしまった職員の『横のつながり』を、同窓生という関係で少しでも強くすることができれば、とも思っております。

### ☆千葉市役所葛城会

会長 折原 亮  
(昭和59年卒)

千葉市役所葛城会は、例年1月〜3月に総会・懇親会を開催していますが、令和2年1月の開催以降、中断が今なお続いております。

昨年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行後、夏場のインフルエンザ流行や、本年の被災地への職員派遣などもあり、調整が遅れております。

今年は、徐々に、千葉市役所葛城会の幹事や有志の集まりを行うなど、再起動をはかり、機運を高め、総会・懇親会の再開を目指してまいります。

千葉県立千葉高等学校同窓会全体としては、幹事学年の昭和57年卒の皆様のご尽力により、2月3日、京成ホテルミラマーレにて、総会・懇親会が盛大に開催されました。

当日は、林同窓会長のご挨拶や、佐藤校長先生から学事報告と「千葉県立学校チャレンジ応援基金寄附金」(ふるさと納税可能)による教育内容の充実のご紹介がありました。

また、恩師の須藤先生・鶴田先生・越川先生、高校時代の先輩・同級生に、千葉市役所葛城会の先輩との再会に、懐かしい話の花が咲き、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

開催にご尽力くださった皆様、深く感謝申し上げます。

結びに、県立千葉高等学校のますますのご発展と先生方・生徒の皆さんのご活躍、並びに、同窓生の皆様方のご健康・ご多幸を心から祈念いたします。

### ☆葛城建友会

会長 神代隆史  
(昭和47年卒)

#### 『活動停止』

令和五年十一月に役員会を開催し葛城建友会は活動を停止することを決定しました。

コロナ禍以来初めての会合でした。

二〇一七年に三五〇回記念大会を催し、「次は四〇〇回だね」と話していた矢先のパンデミックでした。

年十回の例会の会場であったホテルプラザ菜の花が飲食の

提供を停止したこともあり年間十二回以上の活動を続けることは難しいとの結論に至りました。従前と同じ活動ができないならば思い切って「解散」という選択もありましたが「折角の絆を無くしたくない」と会議参加者全員が声をそろえました。そこで会長・事務局などの役職を廃止し、その都度世話役を決めて年間三〜四度の顔合わせを開催することとしました。回数は新規参加希望者の便宜を考えて決定しました。

私が入会した三十数年前には会の名称通り建設関係者のみで構成されていきました。談合組織と勘違いされて参加をためらう方もいらつしやいました。が、一昨年急逝された榑部前会長のご尽力もあり業種にとらわれない会へと変わって行きました。

私が最後の会長となつてしまいました。が四十年以上に亘り培ってきた歴史に思いを馳せ、形は違えど相互の思いを繋いでいくことができれば、と考えています。

例会で講演して頂いた千葉滋胤さん、石井俊昭さん、油井宏子さん、神谷ちづ子さん、岸高清さん、長島弘明さんにこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。長い間ありがとうございました。

## OB会だより

### ☆卓球部OB会

会長 長内 進  
(昭和50年卒)

千葉高卓球部OB会の2023年度総会をコロナが落ち着いてきましたことから6月17日(土)に4年ぶりに開催しました。当日出席していただいた15名の方々には改めてお礼を申し上げます。主要な審議結果は以下のとおりですが、(4)に記載のとおり、今年度より私が会長を本間さんから引き継がせていただきました。OB会の皆さまのご期待に応えるよう精一杯頑張らせていただきますので、ますますのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。なお、



今年の総会には多数の方々のご出席を期待したいと思っております。

- (1) 2022年度の活動報告
- ・総会と千葉高杯卓球大会は中止、現役へのネットとサポートの寄付、千葉高同窓会報の原稿の作成、会計監査の実施などを確認。
- (2) 2022年度の会計報告
- ・前年度繰越金は391,783円で次年度繰越金は356,189円となり、単独収支は135,594円となることを承認。
- (3) 2023年度の活動計画
- ・千葉高卓球部OB会のメンバーングリストやサークルスクエアの継続的な管理、千葉高卓球部の支援などを引き続き実施していくことを確認。
- (4) 2023年度の役員体制
- ・長内常務理事が会長に、本間会長が相談役に、児玉理事が常務理事に、石井さんがオブザーバーにそれぞれ就任することを承認。
- (5) その他
- ・15名全員が近況報告などのスピーチを実施

### ☆サッカー部OB会

松崎康弘  
(昭和47年卒)

#### 『現役との交流戦』

毎年1月2日にはOB・OGが集まり、1月3日には現役高校生が集まって、それぞれ蹴り、その年初めてのサッカーを楽しんでいる。それならばと1月2日に現役/OB・OGが一緒になっての蹴りを考えた。現役もOB・OGの顔も分かつ



て、より知り合えることにもなるし、卒業生が翌年の初蹴りにも参加しやすくなる。しかし、流石に1日のイベントとしては大き過ぎ。夏の千葉高グラウンドで交流しようと別途計画をした。

2022年7月30日に第1回を開催し、昨年の7月29日が第2回目。サッカーのシーズンが始まると、現役のみならず、OB・OGも日程過密となり、初蹴りほどの参加者数には至らないが、それでも40人強の選手、また現役顧問、OB顧問が集まった。水分補給も十分に行いつつ、暑い日差しの下、現役のスピードに技術と戦術で対抗。2時間ではあるが、サッカーを通じての「同窓」を楽しんだ。

生活にサッカーを！  
葛城クラブは、千葉高サッカー部のOBによるサッカークラブで、千葉県社会人サッカーリーグを主戦場としている。現役は、何年か後にはOB・OGとなる。現役のキャプテンもライン仲間に入ってくれた。同じグラウンドでサッカーを楽しんだ仲間が即戦力として活躍し、ずっとずっとサッカーを楽しんでくれることに期待している。

### ☆バレーボール部 OB・OG会

会長 枝松宏明  
(昭和46年卒)

昨年11月18日に4年振りに総会・懇親会を開催しました。総会では会長、副会長の交替、幹事交替(会則に幹事70歳の定年制度を記載)が行われ幹事長は6年卒から61年卒へと大きく若返りました。懇親会では創部以来、



初代の早川先生はじめ金子先生、中谷先生で40年以上顧問を勤めていただいた先生へ哀悼と感謝の黙祷を捧げその後の懇談は盛大でした。

皆で集まるのが難しかった間、役員会はメール交換(1週間ほどかけて)やZOOMにて行いましたが、メール交換の方が時間が縛られないメリットが好まれました。コロナ禍の中で新しい会議方法が生まれ役員間の連携は保たれ、また現役へのボール支援やスポーツドリンク(粉末)の差し入れなど毎年継続することができています。

現在の男子部顧問は田中航祐先生でバレー部OBです。また、現在は転勤されましたがやはりバレー部OBの松井洋平先生が女子部の顧問でした。なお、お二人共に千葉高同窓会の広報委員長を務めていただき感謝しています。

本会の目的は会員の親睦、現役の支援とありますが、この延長として前出のお二方に続く現役諸君や若手OB・OGへ年配OB・OGから何らかの応援も活動の一つかと考えます。

### ☆葛城水泳会

会長 宮下賢一  
(平成2年卒)

令和5年10月、前会長の古宮



一郎さん(昭和46年卒)が逝去されました。

水泳部は安房、銚子の両水産高校などに次ぐ県内強豪の一角を占めていましたが、競技全体がクラブ主導となる中、顧問の岩瀬先生(佐倉高校、敬愛学園高校校長)が新たな部活動として水球を導入しました。このタイミングで入学した古宮さんは得意のバタフライと水球の兼任選手として活躍し、また卒業直後に開催された千葉国体では競技役員として、県水球草創期の発展に尽力されました。

時は下って昭和最後の年、古宮さんはコーチとして母校に戻ってきました。当時の県高校水球は参加22校を有する全国一の激戦区。リーグは関東大学に匹敵する4部制で、他県では定数割れの関東大会にも出場自体が至難の業です。古宮さんは放課後日参して指導を重ね、数年で関東大会の常連に復活し、大学で競技を継続する卒業生も増えました。

他県強豪校との試合を重ねる中で、古宮さんは水球もジュニアからの強化が必要と思いつき、県内高校の先生方と共同で「千葉水球クラブ」を立ち上げました。結成当初から全国大会で入賞を重ね、昨年はいよいよ小学生の部で全国初優勝を達成。これを見届けての旅立ちとなりました。

私が最後に古宮さんと言葉を交わしたのは、9月第1土曜日恒例となった葛城水泳会総会のお誘いでした。これに対し古宮さんは「インカレ準決勝を見に行く」。成長した愛弟子の活躍を見ることが楽しみの方でした。

後日、千葉水球クラブ主催でお別れ会が行われ、日本代表元監督など約250名が集まりました。私も含め縁の深い方々による弔辞の最後は、東京五輪女子代表選手でした。「一緒にオリピックを目指そう」を実現できたお礼を涙ながらに語っていました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

### ☆野球部OB会

事務局長 瀧岡 賢  
(平成元年卒)

教育者の中馬庚氏が「野球」という訳語を発明したそのわずか3年後、我らが野球部は1897年に産声をあげた。以

降、個性あふれる人材を内外に数多輩出(プロ野球経験者4名を含む)し、甲子園全国大会にも通算6度の出場を果たすなど、「輝かしい歴史」を積み重ねて来た。

昨秋11月3日、千葉高野球部の創設125周年を祝う記念式典を開催。総勢約130名、昭和卒から平成・令和卒まで、最大年齢差50歳超の各世代OBが

参集したほか、現役チームから黒川監督以下16名の部員とその家族も参加、さらには元部長の鶴田忠雄先生や越川芳雄先生など、関係者が一堂に会し、連綿と続く部の伝統と絆を確かめ



合った。「母校の甲子園出場」という共通目標を一世紀以上も掲げ続ける「稀有な集団」の存在をあらためて意識したひと時でもあった。

高野連によると、1990年には148千人に上った全国の野球部員数が、昨夏には128千人にまで落ち込んだらしい。県内の一部伝統校では、部員数が確保できず、休部や廃部を余儀なくされているという。今のところ、母校野球部では必要な部員数を確保できているものの、今後も持続的に「輝かしい歴史」を積み重ねていくためには、「稀有な集団」が今まで以上に知恵を絞り、活動を深化させていく必要があるだろう。そして、そのプロセスを他校に展開できる様になった頃には、「野球」自体の魅力も今まで以上に高まっているはずだ。

◇ ◇ ◇  
ところで「千葉高野球部の伝統」とは…。この解像度を高めることが当面の課題である。

### ☆ラグビー部OB会

会長 長 英連 (昭和52年卒)

現役チームが合同チームでの活動であることは、同窓会報(第52号)でお知らせした通りです。その礎金組は他校メンバーとの連携も良く、春の大会では1回戦に勝利、秋の大会でも予選リーグ戦で気迫溢れる闘争心を発揮し1勝2敗と善戦、持てる力を出し切りました。続く志波組も新人戦で予選リーグを首位通過し、トーナメント戦にも進みました。

◇ ◇ ◇  
続く千葉県合同チーム大会では、5チームのリーグ戦で4戦全勝と優勝し、3月の関東高校合同大会(神奈川県で開催)に出場いたします。

### ☆弓道部OB会

前副会長 徳村 万貫夫 (昭和45年卒)

コロナ禍で開催が延期され続けてきたOB会ですが、令和5年に4年ぶりに開催され、懸案となっていたOB会の新役員人事が承認されました。

弓道部OB会は昭和52年4月2日に設立され、伊藤会長(弓道部2期)・森副会長(同3期)と徳村(同4期)による三役の体制が46年の長きにわたって続いてきました。新会長の牧山さん、新副会長の常川さんとも50期の部員です。伊藤会長はじめ、これまでの役員が就任したときとほぼ同じ年齢の新役員に交代したわけですね。

同窓会報の記事や同窓会総会での報告でご承知の方も多いと思いますが、現在、千葉高弓道部の活躍はまさに「黄金期」と言えるのではないのでしょうか。インターハイの常連校と言っても過言ではないと思います。

これほどまでの発展は、よき指導者に恵まれたことと、部員

この3月には、高校の大教室から、従来の市内ホテルに会場を移し、多くのOBが参集できる「卒業生礎金組の壮行会」を企画いたしました。

この3月には、高校の大教室から、従来の市内ホテルに会場を移し、多くのOBが参集できる「卒業生礎金組の壮行会」を企画いたしました。

の諸君も「正射必中」という千葉高弓道部の伝統を守りつつ、たゆまぬ努力を積み重ねてきた成果と思います。今後、よき指導者のもと、努力・精進を重ね、この黄金時代を継続していつてもらいたいと念願しております。新しい体制となったOB会の存在も、大きな支えになるものと信じております。

### ☆山岳部OB会

会長 中谷和博

(昭和44年卒)

令和5年11月18日、4年ぶりに山岳部OB会総会を開催することができました。OB・OG・現役高校生・旧現顧問の先生、全員で35名が集まりOB・OGの近況報告・現役生の活動報告がなされました。

2時間余りの楽しいひと時はあっという間に過ぎお開きとなりました。

コロナ禍の影響ででしょうか、今まで使用していた会場が使用できなくなり、新しい会場探しに苦労しましたが布施博孝(46年卒)さんが何とか探してくれました。

コロナ禍で総会やOB会山行を行う事が出来ず、4年間のOB・OGの消息が気になるところでしたが、残念ながら2名の方の逝去が確認できました。返



信の無かった方が元気でいることを願うばかりです。OB・OGの増加に伴い、総会開催の案内状やメールの発送・近況報告の整理・OB会報の作成や発送等、役員の方々の得意分野を生かして運営に努めていきます。

OB会山行・会報の発行・OB会総会は維持しつつ、新しいことにも取り組んでいきたいと考えています。

## 学年短信

●昭和22年卒

齋藤喜久三

### 『師と教え子の絆』

世界中の国難と恐れられたコロナ禍も必ずや人類が征服するの信念での第53回同期会を延期と見送り後、令和5年4月18日、恒例の西千葉「みどり」で開催した。

三年振りの級友は残念乍らコロナ禍の期間健康を害して、温厚なる堀君をはじめ、千葉市戦災で亡くなった刻名式慰霊碑を建立した白井君、NPOの松野尾君、千葉鉄道監理部の恩田君、年末に小山君と級長の大庭君、千葉中陸上競技部の重鎮齋藤良二君の7名が先立たれたのであ



第34回 平成12年(2000年)6月3日 早崎先生百寿記念同窓会 於ほてい家



早崎準一郎先生百寿記念同窓会 平成12年 2000年 6月3日

る。就中堀君は寺院の僧職である為、生前に「私は同窓諸兄の最期をみつめてから」と云って、事を94才迄頑張ってくれたのには只々感謝に余りある事だった。

祝宴に先がけ全員で旅立った友に黙祷をしてから開会となった。

祝宴もコロナに苦しめられたので、「みどり」でも祝膳方式にして貰い、やっと再会の喜びに花も咲き、遠い々々子供の頃、入学試験(小六年)や話はやはり戦争中の事が頭から離れないのも無理はあるまい。

誰かが「俺達このまま100才迄頑張って千葉高の同窓会総会に出席したら面白いぞう」とか楽しんでる時に、「そうだと差から千葉高の名物先生だった恩師の早崎先生は俺達の同期会

に百才でもお出で下さった」の声で皆から絶賛の大拍手が巻き起こった。早崎先生の思い出に会話は移って行ったのである。

早崎先生は我々が生まれた年、昭和4年(1929年)に富山県立魚津高等学校より千葉中に赴任された。先生が平成12年第34回の同期会に県知事(沼田先輩)より頂いた御祝の羽織を着用されて出席されたのには只々驚いた。

先生の野球に関してのお話は百歳とは思えない力説があった。昭和20年に野球部長に任命され、戦後千葉中の野球部は弱く、千商、成田と二校の名前を聞いた瞬間から精神的に委縮する、とても勝てない、それだけの虚脱感から脱出出来る事に努めた。そして再出発が始まった。先生らしく和と差の理論だった。

次に先生らしく電光石火の勢いで、戦後すぐ軍隊が引き揚げる時学校に「いすゞ」6輪トラックを置いていつてくれたので、早速他校との試合に好都合として保管している時に突然進駐軍の学



校視察を受け、この証明に先生が立ち会われ、この使用は先生お手前の言葉にそれは学校の職員的生活源の買出しに是非共必要と了解して貰った。ほんとうは第2弾の念押しに進駐軍に野球の試合を申込み、これ幸いと毎土曜日午後3時迄試合で楽しまれた。さすがの早崎戦略が成功して天下晴れての公道使用許可が出たそうだ。早速対外試合となるのだが、戦時中ほどのグラウンドも芋畑なので早速成東中より赴任された坂斎校長先生に相談した処、二つ返事でOKが出たので本格的な先生が待ち望んでいた初動が始まった。面白い事に普段は野球に全然関係が無かったのにリュックサックを背負った人の応援で帰路はトラックの中央にしゃがみ込み、周りを生徒が囲って埋め、買出し取締りを通した事もあったそうだ。同時にあちこちでの他流試合も機動部隊の効果万点、戦績もどんどん上り、遂には先生の目標だった甲子園へ。昭和20年野球部長に就任されてから昭和25年、僅か5年で、そしてその3年後の昭和28年にも2度に亘って甲子園出場を成し遂げられた。これには先生も部長として大変に大変に嬉しかったそうだ。拍手!!

ここで先生は想像もつかない事件?をお話しされて一同吃驚仰天のお話である。時折ご出身の赴任先、富山県立魚津高等学校から同窓会のご招待があり、先生曰く35年も経っているのに案内された席に着くとこれはしまった、まさしく紅一点でなく黒一点となっていて。まずは先生のご挨拶を司会者から指名された会場を見渡したが、昔の娘さん達は一人として見当たらないキラビヤカな奥様達と淑女連ばかり。男の同窓会には度々千葉中でも招かれて勝手を知っている。女学校の同窓会とはなんとまあかたつくらしいものだなあーと困りぬいた。しかし時の経つにつれお花畑のようになり、郷里の方言に親しんだそうだ。無理もない。長年の野球部員達と先生は矢張り千葉中の男子達である。

先生のお話を伺っていると我々をいかに我が子の様に可愛がって頂いたかが随所に見受けられる。ほとんどの同期会毎に出席下さった。教え子達の成長に目を細くして笑顔の先生はこれこそ師弟の絆と云えよう。先生から頂いた事柄を後輩達に如何に素直に受入れてもらえるか九十五才の語りべとして我々一同継承していかなくては。しっかりとしないではいけません。

●昭和25年卒

矢島 肇

流石に千葉高と思わせるのは著名人の多い事ではないか。伝統ある母校、百三十年余の歴史の中に多士済済の卒業生がいる。自慢話は良くないが、一人一人を眺めても決してエリートばかりではない。唯それでも一隅を照らしている集りであるのは嬉しい。著名人を知っているかと言えば、知らないと言う人が多い。有名人簿を作ってはどうかという話もあった様だが現在ではほとんどない事だった。

扱て、ふり返って同期を眺めてみたい。既に六割は鬼籍の人である。我が同期には、「我が友我が青春」という名簿があるのでその中から紹介したい。

先づ佐藤徹君。卒業時の総代で大蔵省に入省、主計局長、そして大臣迄約束されていたが、早世した。葬儀は盛大で竹下大臣も参列した。私は同期を代表し同席した。入学時の総代は山本隆之輔君で奇遇で妹さんと同じ職場で出会った。次にC.N君。タレント代議士で時の人、父親は千葉高の先生であった。昭和天皇が崩御され大喪の礼に先頭を歩いたR.K君。色々我々の知らない事もあったが、口は固くほんの少しだけニュースは知っ

た。その点京都知事だったT.A君は楽に付き合ってくれ、知らない街も教えてくれたり、大切な京都府土産迄頂戴し未だ存在するが果たして何であるかクイズにしよう。扱て、ヒーローは何といつても宇津井健君。テレビ、スクリーンで大活躍、随分楽しませて呉れた。紙数制限もあって最後に一人付け加えさせて戴く。彼は同期生でありながら立派な人物で尊敬する。小生は今日迄彼の右腕に支えられ素晴らしい人生を過ごせた。良い友に巡り会えた千葉高は良い学校でした。

●昭和29年卒 福の会

中村浩紹

1951年(昭和26年)4月千葉第一高等学校に入学した学友達は、全員が今春で米寿を迎えた世代である。コロナが収まったら年2回開催の恒例の福の会(千葉と東京)を再開しようとして話し合っていたのにその機会を実現できぬまま、多くの友が



旅立ちし、又は、自由に外出が叶わぬ環境での日常を送っている。福の会は、歴史の節目ごとに記念誌を発刊した。「縣立千葉第一高等学校 卒業50年記念」誌は、1954年(卒業年)から50年を経過した2004年(昭和43年)5月に写真集として発刊した。学友に呼びかけ在学中の想いで写真を募集して、届けられた200枚余の写真を精選し「嗚呼青春譜あれから半世紀」と銘打って60頁に及ぶ写真集を完成させた。いづれも青春の想いが胸に飛び込み懐かしさと感動を与えてくれる至宝の記録写真誌とすることができた。

編集後記は、今は亡き赤木君が出筆している。

「嗚呼青春！瞬く間に過ぎ行きし50年。想い出の小箱を求めてお願いした懐かしい写真が200枚、40名を超えるクラスメートから寄せられました。メインターマの卒業アルバムページに加え、安西先生の版画、現在の学校、級友の今の姿、同期会、旅行なども紹介することができました。それ故、なんとか見栄えのあるアルバムに仕上がったと自賛しています。

編集には、下記の16名が参加しました。当時の情景を思い出すのにより多くのメモリーが、そして専門知識、PC技術等々が必要でした。数回に及んだ作業そのものもさることながら、終わった後の酒と食事も楽しく、写真の中の「人探し」や「あの時は？」など想い出話の花が咲いたものでした。お陰で私達の良い思い出になりそうです。

(赤木記)

赤木快男、浅野毅訓、植草光長、小野口勝世、神崎保徳、鹿島修、関川玉吉、副島純子、副島智雄、田積佐代子、田積晃、永井登、中進士、中村小千代、宮崎勝弘、中村浩紹

本年こそ、残された仲間です。卒寿に向けての集いを企画実現したいと思っている。

●昭和30年卒(三十年会)

会長 大塚正明

30年会の総会懇親会は、24年11月2日に予定しているが、今回はめでたい米寿を迎える会。私は23年の会で、「米寿での再会を楽しみに」と挨拶した。

69年前、341人の仲間と母校を後にして以来、「よくぞここまで」と感慨深い。

私たちの世代は、「昭和の高度成長を支えた戦士たち」。一人ひとりそれぞれ立場が違って、たことを誇りに思う。あえてひとりの名を上げれば、卒業生数多くいる中、唯ひとり文化勲章を受章した三谷太一郎君。



会の主な活動は、節目の卒業30周年記念の植樹と60周年記念の図書館への図書寄贈。

千葉県の県木、榎の植樹は、85年6月、母校の校門を入って右手にある庭園に榎の幼木を、40人が参加、当時の矢崎校長立ち合いのもと植えた。樹の根元には、書家となった飯高和子さんの揮毫による「若人」と刻まれた記念碑を立添えた。

もうひとつ、15年7月会員から寄せられた60万円、母校の図書館用に図書資金を寄贈、「30年会寄贈図書」のコーナーが設置された。この寄贈が在校生の留学のための奨学会寄贈の呼び水となれば、と願っている。

遊びの方では、ゴルフの会の歴史が長い。春秋の年2回、100回は続いただろうか。毎号書くが、事務局長・早川英明君のスナックが、30年会の寄り合いの場所になっている。

最後に、総会に毎回お見えになって下さった、私たちよりひと回り上の、故早川俊一先生のひと言が忘れられない。

「若い時のことは忘れて無理しなさんな。転ばないよう気をつけろ」。

△おわび▽同窓会報52号「30年会短信」中、末尾は「令和6年の再会」でした。

●昭和31年卒(三一会)

山中 齊

母校、県立千葉高校同窓会は、有難いことに、毎年、会報の一部を割いて「学年短信」を掲載して下さっている。

その配慮に感謝しつつ、この度も、ペンを手にしている。

三一会では、2019年から、毎年、三月一日に、ホテル・ポトプラザを会場に、同期の仲間と、旧交を温めている。

この年は、恩師早川先生のご臨席を仰ぎ、楽しいひと時を過ごした。

2020年には、コロナが猛威を振るい始め、残念なことに、女性の参加者は、待てど暮らせど、三一会史上、初めてゼロであった。

その後も、コロナ禍は衰えを見せず、2021年には、とうとう開催を見送らざるを得なくなりました。

翌2022年、2023年も霜代表はじめ関係者で、何度も検討を重ねたが、かつての葛城健児も、年齢、80を越えていることを考慮すれば、開催に踏み切れることは、できなかった。

※2024年3月1日は、開催を予定している。

●昭和33年卒

井貫武亮

昨年(二〇二三年)十一月十一日、京成ホテルミラマールで、四年振りに同窓会を開きました。参加者は、三十九名でした。千葉高卒業後六十五年になり、皆八十三、四歳の高齢になりました。

どうしても話題の中心は、健康問題になりましたが、まだ事業を続けている人や体力が必要な農業を楽しみながらやっている人、なかにはボランティアに精出している人、趣味や旅行を元気に楽しんでいる人も居て、多士済々でたいしたものですよ。

又、永年のご苦労の積み重ねで、足腰に不自由を感じる人や、病気や認知症気味を自覚する人も居て、高校卒業後六十五年を経過した実感をつくづく持ちました。

同窓会は、人それぞれに若かった頃を思い出したり、同期特有の親しみのある会話の中で、フツと懐かしさを感じながら、一時を過ごせました。

この度の同窓会の運営は、石塚眞氏を中心として、七名の有志が担当しました。同期の皆さまは、四年後八十八才を迎えます。米寿を祝う同窓会を、前年の二〇二六年十一月十四日(土)に

開こうではないかとの話しが  
出ています。それまで元気に過  
して、又会いましょう。

●昭和39年卒(69葛城会)

幹事 島山 一雄

2023年はコロナ感染以前  
と同様に同期会活動を行いま  
した。

3月29日には夢の島公園周  
辺で桜見物ハイクを行い、18名が  
参加しました。春秋のハイクは  
定例行事となっています。11月  
25日には船橋市アンデルセン公



園や県民の森で紅葉ハイクがあ  
り20名が参加しました。ハイク  
後は食事処、蕎麦屋等で歓談と  
飲食を楽しみました。

4月30日には第8回稀楽の会  
コンサートとその後の懇親会を  
開きました。稀楽の会のメンバ  
ーは同期の有志6〜8名が還暦の  
年にSix Times Tenという名称  
で毎年1回、船橋市勤労市民セ  
ンターホールにてコンサートを  
開き、各自が楽器演奏や、歌曲  
等を披露してきました。喜寿に  
なつてからは稀楽の会への名称  
変更と若干のメンバー変更を行  
い、コロナ感染自粛の年を除  
き活動を継続してきました。

コンサートには同期の仲間や  
友人家族たちが集まりました。  
これを機にコンサート後  
にはメンバーと来場者が合  
流して同期の懇親会を開き  
ました。今回で永きに亘った  
活動に区切りを付けたとい  
の事でコンサート後の懇親会  
では31名が参加し、今まで  
の活動をねぎらいメンバーに  
感謝しました。

5月29日および11月29日  
には定例の同期会ゴルフコン  
ペが本千葉CCにて4組で  
開催され、楽しくプレーし  
ました。その他にも個別の  
グループにて4月20日塩船  
観音ツツジハイク、8月3日

昇仙峡ハイク、ゴルフ、山歩き、  
旅行や山の会忘年会等を行いま  
した。昭和39年卒(39葛城会)は  
各幹事や世話役のお陰で同期の  
仲間との交流が続いています。

(写真) 上左・夢の島公園桜ハ  
イク、上右・アンデルセン公園  
紅葉ハイク、下左・第8回稀楽  
の会コンサート、下右・稀楽の  
会コンサート後の懇親会

●昭和41年卒

大川 玲子

(千葉県性暴力被害支援センターちさと理事長)

『支援のお願い』

千葉高校同窓会の幹事学年  
となった60歳の折、その準備と  
同期生再会のために作ったML  
(メーリングリスト)が今も継続  
している。投稿が物議を醸した  
り、仲間の訃報に接したりもす  
るが、続いているのは「管理人」  
氏のおかげである。同じく世話  
人の働きでコロナ期間を除いて  
同期会も毎年開催、ナンと今回  
で47回目だそうである。11月25  
日のホテルポートプラザちばで  
の会には56人の出席を得た。何  
とか全員が近況報告し得る微妙  
な人数だが、喜寿を迎える今年  
は盛大にと祈っている。

筆者は産婦人科医で2013  
年に国立病院機構千葉医療セン  
ターを定年退職、一年の準備を  
経て、翌14年に病院拠点型のワ



ンストップセンター「千葉性暴  
力被害支援センターちさと」を立  
ち上げた。

内閣府の呼びかけに応じた活  
動で、現在はほぼ各県に一つのセ  
ンターがある。医師は被害直後  
の診察や検査、証拠採取、緊急

避妊ピルの処方などを行い、被  
害者の精神面での回復という大  
事な仕事は様々な背景を持つ「支  
援員」がこれに当たっている。「ち  
さと」は性暴力という表に出にく  
い暴力犯罪の最初の相談窓口と  
いう位置づけである。当初は知  
る人も少なかったが、相談依頼  
は年々増加、昨年はジャンプス・  
スキヤングルの表出もあつて、大  
いに多忙であった。

民間団体のた  
め、「ちさと」は常  
に資金不足で、同  
窓諸氏の篤い応援  
をぜひお願いしたい。支援員に  
なつていただける方がおられれ  
ば大々歓迎。ご寄付は、ゆうちょ  
銀行 00100-5-324302 特  
定非営利活動法人 千葉性暴力  
被害支援センターちさと まで。  
QRコードで「ちさと」のウェブ  
ページをご覧ください。



(写真) 昨年の同期会。2枚目  
の写真左が筆者。

●昭和42年卒

中山 泰正

昭和42年卒の同期会は5年ぶ  
りに千葉みなとホテルポートプ  
ラザちばで64名の参加者で行わ  
れました。話の種に孫自慢、年  
金、病氣は禁止と決め、会話を  
進めて行きました。しかし亡く  
なつた同胞に話が及ぶと、生徒

会長、国体に出た万能選手、部活のリーダー、又はクラスの人氣者、才色兼備だった人、太く短かく生きた彼等、彼女等に思いを馳せました。又、お世話になった先生方の話題も多く出ました。個性豊かな先生が多く私達に愛情を注いで下さいました。授業の際の顔と職員室(当時は科目単位で職員室が別々でした)での膝を交えた話をする時のそれとのギャップにおどろかさされた。

熱心な先生方と多感で向上心に溢れた同胞の中で勉学や部活に切磋琢磨してきた高校生活は私達の人生に何と強固な基礎を築いてくれたか計り知れません。派手ではなくとも地道に輝かしい足跡を残された先輩方の経験談や、前途有望、活力溢れた後輩達の躍動に刺激を受け、よきお付き合いをさせていただきたいと考えております。

この同窓会報を続けて来られたスタッフの方々、あなた方の絶え間ない御努力に感謝いたします。有難うございます。

●昭和44年卒

森 茂

『ようやく開催』

二〇二三年十月、コロナ禍のため三回流れた「古稀記念(第七

回)同期会を開催。前回から五年ぶりとなり、七十歳のはずが計算通り約七三歳となった面々九五名が京成ホテルミラマールに集いました。

開催準備も順調なときは良いのですが、この五年間はコロナ禍に翻弄され続けました。開催通知の後を追いかけて延期通知の発出・再々延期通知・今回は実を結んだ開催通知・「会計」がカラになる寸前でした。出席者には、今後の開催準備資金として、少々高めの参加費を拠出して頂きました。(改めて、有り難うございます)

今年は元旦から自然災害や大事故が発生し、さらに国内政治も世界状況も人間の愚かさばかりが跋扈するなど、「明るさと楽しさ」を何処に求めたら良いのか途方に暮れている人が多いのではないのでしょうか。こういう時こそ、校歌に謳われている「正しき文化」の在り処を真摯に追求したいものです。

これまで同期会の推進役だった榎部健夫君(二〇二二年五月に逝去)に、同期会開催の報告をして筆を擱きます。「ようやく開催できましたヨ」(合掌)

※次回(第八回)同期会は、二〇二七年十月に開催予定です。「喜寿記念」ということになるでしょう。皆さんと元気で

会いできることを祈っています。

●昭和47年卒

藤原 真由美

『古希をむかえて。』

昭和四十七年卒のわたしたちは、この三月でみな古希を迎えます。そんな記念すべき年に無事、4年ぶりの同期会を開催することができました。

70歳の同期はみな活動的です。大学教授を退官し溜まっていた著作活動に入る方、大手デパートの美術画廊で三年後も個展を開催する方、フルマラソンにエントリーして走る方、学習塾で受験生に教えている方、元氣なみ



なさまに励まされています。

また、部活動も盛んです。ゴルフクラブでは、年に二、三回コンペを開催、またサッカー部では観戦が中心で、地元JEFの応援、高校サッカー観戦など同期で集まっています。

この年になってつくづく思うのは、仲間のいる有難さです。困ったときも相談でき、また有益な情報を共有したり、メンバーリストも活用しています。先輩たちの学ぶ姿勢にならって、いつまでも若々しくありたいと願っています。

(写真) 2023年10月21日開催の同期会、会場風景

●昭和49年卒

梅原 一朗

『同窓会と安西先生のこと』

昨年10月、昭和49年卒の同窓会が、コロナ禍の空白を経て6年ぶりに開催されました。既にリタイアしている者も多い中、前回を上回る人数の出席があり、2次会までほぼ全員が残ってお互いの老後の過ごし方報告や、先生の思い出話で楽しい時間を過ごしました。

そんな多少の興奮が冷めやらぬ中、夕刊の催事案内の小さな記事がたまたま目に留まりました。「千葉ゆかりの木版画家 安



西七郎展。

「秘湯の会」と称して、同期男性女性各4名で毎年温泉旅行に集う仲間が早速案内、有志4人で鴨川市にある「私設房絵郷土美術館」を訪ねました。展示会場は山間にある小さな美術館でしたが、先生と親交があったという館主所蔵の版画が展示されていました。

安西先生は3年生の時の文系クラス担任で、世界史と日本史を学びました。そのユニークな講義とともに思い出すがその通勤登校の様子で、毎日天台のご自宅から歩いて通われていました。

その登下校時や散歩の時にスケッチされたスポーツセンターや千葉寺の畜産試験場の版画など、懐かしい風景満載の展示でした。中でも秀逸は千葉高の(我々は実際に見たことはない)旧時計台の版画です。これは先生ご存命中に開催された同窓会の「千葉高クイズ」の賞品としてもご寄贈いただきました。

今回の同窓会は間隔が空いてしまいましたがお互いの「生存確認」も兼ね、幹事の元野球部監督嶋田さん、羽田さん、またよろしくお願いいたします。

●昭和50年卒

園部 創

令和6年2月3日(土)の同窓会を感じたことは、我々昭和50年卒の席がかなり前になったことだ。後ろを振り返ると後輩たちが沢山座っていた。我々もついに「翁」の世界に突入したのか。千葉高を卒業して49年、還暦幹事を無事こなして早や7年、古代中国の五行思想で言うところの「白秋」世代にある。人として穏やかな空気やたまたまを見せ、人生の実りを楽しむ期間だと定義されている。

我が学年の次回同窓会は、古希を迎える令和8年11月にホテルミラマーレで開催する。あと2年、それまでどう生きるか。「年を重ねただけでは人は老いない。理想を失う時初めて老いる」とアメリカの実業家で詩人のサムエル・ウルマンは言っているし、あの松下幸之助も「青春とは心の若さである。」と言っている。まだまだ我々には、やる事が沢山あるということだ。同期の多くが何らかの病気を患っていると聞こえてきている

が、病気に負けず、残された人生をいかに楽しむか、そして老人の青春を満喫していきたいと考える今日この頃なのであった。

●昭和57年卒

豊田 聡

『同期との14年間』

皆で満46歳を迎えようとする2010年の春。昭和57年度(1982年3月)卒の同期有志が動き出した。我々は14年後に、同窓会全体懇親会の幹事を担う。その大任を首尾よく果たすことを目指して体制をつくろう、というものである。聞けば、その2024年までに3年おきに5回の公式同期会を実施し、再集結をはかりつづける、という遠大な設計図ではないか。同窓会代行サービスに依頼しない自前運営の道を選んだため、変わりゆく連絡先と通信管理および赤字回避策では有志が多くの負担を受容することとなった。40名の満18歳が一斉に校舎から放たれてのち、めいめいが46歳から60歳までを歩むとは、こういうことだったのか。かような次第で3年おきに同期会を開催しては、つど鬼籍入りする同期と恩師への黙祷で魂を鎮めつつ、つど参加者が再会を喜ぶ表情を糧にしなが、2024年2月に14年間マラソンのゴールテープ



を切ることになる。遂に幹事担当を拝命した総会懇親会のおごりかな様子のご紹介は他稿に譲るが、我々はその当日をふくめた全6回の同期会で、恩師含め、のべ530名あまりの笑顔がゆきかう場を刻むことができた。主従無用の間柄で40代、50代に積み重ねた「とき」と「こと」は、

母校へのささやかな恩返しでありつつ、我々の未来に対する恩恵の泉となる、そう信じてやまない。

写真は総会当日の同期集合写真(フォトグラファー佐藤憲一撮影)

●昭和61年卒

幹事 増田 淳

昨年の暮から体調を崩し、年末年始を挟んで静養した。まさに、家族の介助が命綱であった。そんな訳で今年も、年賀状を出すことも叶わず。こんなことは人生で初めてである。同窓生の皆様にご心配をかけたこと、お詫び申し上げます。誠に以て遺憾、幹事失格である。

さて、長らく幹事を名乗ってはいませんが、そもそも誰から推薦されたわけでもない。学年会を開いたことはあるが、一度も幹事をやったことがない。そう言えば、学年幹事を引き受けた経緯も判然としない。覚えてるのは、この会報に一回寄稿してから、毎年連絡が来るようになったということくらいか？

夢と希望に燃えていた高校時代。卒業後、一度も千葉を離れることなく今に至る。究極の結果論だが、私にとって千葉高は、「近くにありて思うもの」。それでも、たまに校門をくぐると懐かしいなと思う。そして、何も

変わっていないことを実感する。

爾来、四十年。あと数年で、全体同窓会の幹事学年、いわゆる還暦である。願わくは、一人でも多くの同窓生が帰還し、再会できることを楽しみにしている。併せて、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

●平成元年卒

古内 和明

前回開催以来8年ぶりとなった平成元年卒の同窓会は、令和5年11月19日(日)、大手町サンケイプラザ大ホールにて開催されました。コロナによる自粛期間明けの初めての会ということもあり、前回は大きく上回る163名もの同窓生に参加いただきました。当日は来賓として3年次の担任であった根本久雄先生(英語)、嶋田治雄先生(数学)、大村紘一郎先生(社会)をお招きし、卒業後34年を経ている出話に花を咲かせました。

我々の年次はいわゆる第二次ベビーブーム世代の始期に該当し、1学年10クラス458名と相対的に人数の多い世代でした。当時は京葉線や東葉高速といった都内への鉄道網も未整備であり、県内にも競合私立が未だ少なかつたことから、県北西部からも多くの俊英が集いました。年次が示すとおり、卒業年の年



後に当日閉会の挨拶の言葉を紹介します。「自由と放任が一番だ！」

●平成12年卒

東 寿浩

2年前に千葉市に自宅を建てて、再び千葉市民となりました。大学卒業後、京都で就職したため地元との縁が途切れてしまいましたが、30歳になる頃から関西在住の千葉高卒業生の会を主催したり、全国(札幌、仙台、つくば、金沢、名古屋、関西)の若手卒業生の会を企画するなど、様々な交流会を企画してきました。思えば、一度地元から離れたからこそ、母校の繋がりがいかに大切かということに気づき、全国各地で同窓会を企画できた面白いのではと思えたような気がします。地域ごとの特性も知ることができ、たいへん勉強になりました。

初に元号が昭和から平成に変わり、制度最後の共通一次試験を(そして多くの者は翌年の制度最初のセンター試験も)経験しました。コンプライアンスや個人情報保護などの規制が厳しい現在と、何かと緩かった当時とを比較するのはナンセンスかもしれません。しかし、ほぼ校則のなかった当時の母校の自由な気風は、いま思い返せば何をすることも自分で考える必要に駆られ、結果としてその後の人格形成の礎となっていたと切に思います。最

千葉市に戻ってみて思うのは、同期が思った以上に千葉近辺に住んでいないということ(自分も離れていたの偉そうなことは言えませんが)。全国や世界で同窓が活躍するのは母校の教育の成果とも言えますが、一方で地元に残るメンバーがある程度いないと、コミュニティは維持するのが難しいという課題もあります。まずは千葉市近辺に残っ

たメンバーが中心となって18年後に訪れる幹事年に向けて、少しずつ繋がりを増やしていくなど、準備を始めていければと思っています。

部活の同期や同級生と飲んでみると、仕事と子育ての話ばかり。子どもの年齢も、上は高校生から下は生まれたばかりまで様々です。しばらくはそうした時期が続くでしょうが、元氣である証だと考え、病で早世してしまった友人の分も頑張ってくださいと思います。

●平成18年卒

戸澤庸子 (旧姓 長尾)

今年の同級生紹介は、Ennextグループ保険事業責任者の河端一寛さんです。東京大学経済学部を卒業後、広告会社とコンサル会社を経て2019年にEnnextグループに入社。保険事業を立ち上げ、事業責任者を務められています。産前・産後ママ向け医療保険「母子保険はぐ」の広告を、妊娠記録アプリ「トツキトオカ」でご覧になったことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この開発にも河端さんが携わられています。

—県千葉での経験や思い出  
部活は弓道部でした。初心者として始め、3年夏までほぼ毎

日練習していました。授業の記憶はだいぶ薄れていますが、学校生活全体を通じて、自主自立の精神で物事を探索したり深めたりする姿勢を学べたことは、自分の大事な土台になっている気がします。

—今後の目標は？

スタートアップでの事業推進を通じて、人々の暮らしをよりよくすることに貢献していきたいです。個人としては、一学生び成長し続けたいと思っています。何歳になっても、自分ができることや苦学意識を感じることにチャレンジし続ける人間でいたい。

—千葉高同窓生へのメッセージ

千葉高同窓生は初対面でも不思議と「同じリズム」を感じるものが多く、時代や世代を越えて同じ記憶を共有している仲間のような感覚を持っています。この千葉高同窓生との輪を大事にしたいので、すでに繋がりのある方もまだない方も、今後ともよろしく願っています！

●令和4年卒

成人記念第1回同期会

第74期同窓会長 立花悠人

令和6年1月6日(土)、京成ホテルミラマールにて令和4年卒業生の成人記念第1回同期会を開催いたしました。

はじめに、会の開催にあたりご尽力賜りました皆様に、74期生を代表して感謝の言葉を述べさせていただきます。まずこの会には、千葉県立千葉高等学校同窓会のご支援のもと開催することができました。このような素晴らしい会を開いていただきましたこと、74期生一同心より感謝申し上げます。特に会の準備にあたりましては、阿佐事務局長、沢田名簿委員長をはじめとする千葉高の諸先輩方から、丁寧なご指導を賜りました。右も左も分からない同窓会委員のためにご指導いただきましたこと、感謝もしきれません。お骨折りました本当にありがとうございます。また、事前準備から当日運営まで、様々な場面でお力添えいただいた74期同窓会役員の皆様、さらには突然の申し出にも関わらず快く引き受けていただいた受付担当、会場誘導の皆様など、多くの方々のご協力により会を開くことができました。この場をお借りして、会の運営に携わっていただいた全ての方々に厚く御礼申し上げます。 今回の同期会には、池田同窓会副会長をはじめとする同窓会役員の皆様4名、岩田先生をはじめとする恩師の先生方7名、そして同期256名の計267名にご参加いただきました。お忙しい中ご出席いただきましたこと、大

変嬉しく存じます。

さて、卒業から約2年が経とうとしています。思い返してみると、74期生の高校生活は決して順風満帆なものではありませんでした。猛威を振るった新型コロナウイルスの流行を受け高校1年生の3月から学校は臨時休校。高校2年生の6月に学校は再開したものの、1クラスを2分割しての分散登校となり、クラスメイト全員と顔を合わせるこのできない日々が続きました。その後も、文化祭や修学旅行をはじめとした学校行事の中止、さらには活動時間や内容に制限が設けられたなかでの部活動など、何事においても不都合の多い高校生活となっていました。しかし、このような厳しい環境下だったからこそ、様々な創意工夫や、自主的な協力が生まれた側面もあり、より一層強い絆を育むことができたのではないかと思います。そして高校卒業後は各々が選択した道に進み、2年間で様々なことを経験してきました。もちろん高校卒業後に定期的に会っていた人もいましたが、この同期会にて卒業以来の再会となる人もおり、少しばかりの緊張と楽しさが入り混ざった気持ちだった同期生も多かったことと思います。しかしいざ当日を迎えると、気が置けない

仲間と、高校の思い出話や、お互いの近況報告、さらには将来の話に花を咲かせ、あつという間の2時間となりました。「千葉高は入学した時より卒業した時、卒業した時より卒業した後、その素晴らしさを感じる事ができる」というお話を先輩から伺ったことがあります。今回の同期会はまさにその言葉を実感できる、とても充実した会になったのではないのでしょうか。

今回の同期会の開催は、私たちが30歳を迎える10年後を予定しています。そのときには、仕事を楽しんでいる同期、家族が増えている同期、海外で活躍している同期など、同期の存在はこれまで以上に遠いものになってしまっているかもしれません。しかし、今回残念ながら参加が叶わなかった恩師の先生方や同期の方々も含め、また皆様にお会いできることを心から楽しみにしております。

末筆ではございますが、会の運営に携わっていただいた全ての方々に改めて感謝を申し上げ、第1回同期会のご報告とさせていただきます。本当にありがとうございます。

千葉県立千葉



第74期立花会長の挨拶



池田同窓会副会長の挨拶



第73期渡邊会長の乾杯



### チャレンジ応援基金について

県教育委員会では、県立学校が主体的・主体的に実施を希望する取組等を実現するため、地域の住民や卒業生など、様々な方々から応援を受けることができるよう、各学校への寄附金を募集し、その適正な管理を行う「千葉県立学校チャレンジ応援基金」を設置しました。皆様からの御寄附は各学校が策定した「教育活動充実プラン」に基づき活用されます。そこで、本校でも、プランを策定し、教育活動を充実させるため、次の通り、寄附金を募ることといたしました。

#### 「生徒学力向上推進プラン」

グローバル人材の育成及び学力向上を目的として、海外留学や海外研修に係る費用の補助や外部講師による進学用講座に係る費用の補助を行います。

#### 「寄付募金額及び募集期間」

一千万円を目標に、令和六年十二月末日まで募集を行います。寄付の方法等詳細につきましては、千葉県教育委員会ホームページの、「千葉県立学校チャレンジ応援基金」のページをご参照ください。

どうか趣旨に御賛同いただき、御支援、御協力賜りますようお願い申し上げます。

千葉県立千葉高等学校

# 同窓会の母校支援活動

## 社会人講演会への講師派遣

### 令和5年度 社会人講演会

今年度も同窓会の先輩方に御協力いただき、社会人講演会を実施しました。コロナによる運営上の制限もなくなりました。

第1弾として、6月に高1生を対象に、昭和56年卒の西田浩史様から、人材育成、組織開発の御経験をもとに、演習法と帰納法についての考え方、活かし方について中心に御講演をいただきました。

続く第2弾として、10月に高2生対象に9人の先輩方にお越しいただき、講演会を実施しました。最初に講堂で、東寿浩様(平成12年卒)の進行により、各先輩方から講演内容の紹介をいただきました。その後、生徒たちは人数制限なく、お話を聞いてみたい講師の先輩のところへ向かい、御講演をいただきました。日常生活ではなかなか聞くことのできない貴重なお話をいただき、生徒たちにとつて、職業観や生き方についての考えを養う機会になりました。御講演をいただいた講師の方と、生徒の感想の一部を御紹介し

- 東 寿 浩(平成12年卒)
- 作田 豊(平成12年卒)
- 佐々木 俊介(平成12年卒)
- 鈴木 裕介(平成12年卒)

- 寶川 紘司(平成14年卒)
- 長根山 佑介(平成17年卒)
- 小野口 玲菜(平成18年卒)
- 鹿渡 俊介(平成18年卒)
- 千代田 修平(平成24年卒)

### 感想①

時間は有限。自分の人生だから自分以外の誰かによって幸せにも楽しくもならない。童話のようにはいかない。思い通りにいかないことは不幸ではない。テリトリリーや名詞だけで力を発揮するものには実は意味はない。直感的でも、自分の「楽しさ」という1つの感覚を裏切らない行動を重ねれば、不足感や孤独感やこれでもいいのかもしれない不安は楽しさからくる充足感があるほどに欠如をうめてくれる。これが私の1時間で生んだ結論です。感動のような大きなシヨックみたいな感じで涙が出そうでした。ありがとうございます。(千代田先輩の講演)

### 感想②

ちょうどもうすぐ文理選択の時期なので、「ただ得意だから」という理由だけでなく、「将来を見据えた選択をするべき」という言葉がよく響きました。また、コンサルタントやアクセンチュアという会社についても、今まであまり興味が湧かなかったのですが、長根山

先輩のお話をきき、自分の将来の可能性が少し広がった気がします。さらに、「自分の師匠を見つucker」という言葉も響きました。私は同級生と比べ、部活に入っていない分、先輩との関わりが少ないですが、外部での大学生や社会人の方々とのつながりを大切にし、自分の師匠にしてみたいと思います。本日はお忙しい中、私たちがのために時間を割いてくださり、ありがとうございます。今後の進路決定の参考とさせていただきます。(長根山先輩の講演)

### 感想③

高校での生活や大学での生活、進路のことなど、経験をもとにお話ししてくださって、とてもためになりました。研究者となる上で大切なこととして、人と比べないことというのを聞いて、私は人と比べて落ち込んだりしてしまふことがあるので、そういうところは直していきたく感じました。研究者になったら、答えがないものがあったりも立ち向かうトレーニングができたり、小さなことを気にしなくなったりして良いこともたくさんあると思います。研究の話も面白く、本当に小さなものが顕微鏡を通して調

### 感想④

べられるのが興味深いなと思いました。(小野口先輩の講演)

お話を伺って、色々とは余曲折のある人生の中でたくさん経験や気づきを経たからこそ寄り添える患者さんだったり、医者としてのあり方があったりするのだと思いました。自分のやりたいことや必要とされていることを実行にうつしていくという行動力が凄いなと感じました。鈴木さんの考え方や人との向き合い方に感激しました。(鈴木先輩の講演)



## 令和6年度 定時理事会報告

令和6年1月20日(土)午後2時定時に母校講堂にて、母校の川俣正仁、大谷照久副校長、押塚法子教頭をお迎えし、理事役員41名、校内事務局の先生方4名の48名が出席して開催いたしました。

川島康行事務局次長の司会で、体調不良により欠席の林孝二郎会長に代わり、戸谷久子副会長の挨拶、同じく体調不良により欠席の佐藤晴光校長先生に代わり、川俣正仁副校長より母校の近況報告を含んだご挨拶をいただき、戸谷副会長が議長になり議事に入りました。

### 議題は次の5議案でした。

#### 議案1 令和5年度事業報告

年初1月7日に令和3年卒73期生成人記念同例会、21日に定時理事会を開催。2月4日に同窓会総会・昼食会を開催。3月卒業記念品(卒業証書ホルダー)の寄贈、同窓会報52号の発行並びに約6050部の個別送付。その他卒業生講演会への協力、令和6年に向けた成人記念同例会や総会・懇親会の開催準備を進めました。

#### 議案2 令和5年度決算報告並びに監査報告

次頁の決算書をご参照ください。

#### 議案3 令和6年度事業計画

1月6日令和4年卒74期生成人記念同例会、20日定時理事会開催。2月3日総会・懇親会を開催。3月卒業記念品寄贈。4月同窓会報53号発行並びに6千4百部個別送付予定。6月卒業生講演会(講師は昭和57年卒業生)、その他来年に向けた成人記念同例会や総会・懇親会の開催準備を進めてまいります。



**議案4 令和6年度会計予算**  
令和6年度会計予算は次頁記載の通りです。

**議案5 令和6・7年度役員改選**  
役員改選期に当たり、顧問・参与をはじめとする本部役員、同窓会事務局員、団体選出理事、常設委員会委員長の他、年度選出の常任理事・理事の改選案をご提案しました。

大きな改選はなく、ご承認いただきました。令和6・7年度の本部役員は24頁に掲載しております。

活発な質疑がありました。各議案とも全会一致で承認されました。

議案審議終了後、その他報告事項として同窓会名簿管理システムのバージョンアップの件、各地域・職域葛城会、クラブOB会、

(2)

2023(令和5)年度 同窓会会計決算報告書

令和5年1月1日～令和5年12月31日

I. 一般会計

1. 収入の部

総額 15,587,011 円

区分	予算額	収入額	増減	備考
繰越金	12,668,118	12,668,118	0	
同窓会入会金	1,600,000	1,576,000	-24,000	
寄付金	0	306	306	
会報寄付金	1,200,000	1,261,500	61,500	
名簿売上金	54,000	81,000	27,000	
雑収入	882	87	-795	預金利息
特別収入	0	0	0	
計	15,523,000	15,587,011	64,011	

2. 支出の部

総額 4,162,837 円

区分	予算額	支出額	予算残額	備考
(1) 事業費	4,304,000	3,592,894	711,106	
卒業記念費	150,000	132,289	17,711	卒業証書ホルダ
会報発行費	550,000	541,200	8,800	同窓会報52号印刷
会報配布費	1,254,000	1,295,002	-41,002	同窓会報個別52号個別発送
卒業生講演会費	150,000	100,000	50,000	高校総合学習
学校活動振興費	100,000	40,000	60,000	中学校社会人講演会
委員会活動費	50,000	0	50,000	委員会打ち合わせ
支部援助費	300,000	30,000	270,000	葛の花会通信費補助等
成人記念同期会支援費	950,000	680,253	269,747	73期成人記念同期会開催
名簿管理システム整備費	800,000	661,100	138,900	名簿管理システム維持
総会関係費	0	113,050	-113,050	同窓会総会・懇親会関係費
(2) 運営費	1,030,000	569,943	460,057	
会議費	100,000	12,940	87,060	理事会・常務役員会
印刷費	200,000	45,540	154,460	総会理事会資料等印刷
通信費	350,000	261,026	88,974	総会・理事会案内はがき・電話料
慶弔費	50,000	24,200	25,800	弔電・生花
渉外費	150,000	150,000	0	会長渉外費
事務局関係費	50,000	36,916	13,084	ホームページ維持管理・事務用品
事務局整備費	80,000	0	80,000	事務局通信機器等整備
雑費	50,000	39,321	10,679	同窓会入会金返金
(3) 母校支援金	300,000	0	300,000	部活動支援
(4) 予備費	9,889,000	0	9,889,000	
計(1)+(2)+(3)+(4)	15,523,000	4,162,837	11,360,163	

3. 差引残高(次年度繰越金)

総額 11,424,174 円

II. 同窓会基金

1. 収入の部

総額 106,085,950 円

区分	予算額	収入額	増減	備考
(1) 繰越金	106,084,153	106,084,153	0	
(2) 特別収入	0	0	0	
(3) 雑収入	2,000	1,797	-203	定期預金利息
計	106,086,153	106,085,950	-203	

2. 支出の部

総額 0 円

区分	予算額	支出額	予算残額	備考
(1) 一般会計への繰入金	0	0	0	
(2) 事業費	0	0	0	
(3) その他	0	0	0	
計	0	0	0	

3. 差引残高(次年度繰越金)

総額 106,085,950 円

※3 繰越金内訳 清水基金10,101,015円 石田基金95,984,935円

以上、報告いたします。 令和6年1月12日

会計: 岡田正大(印) 中川朱理(印)

監査の結果、適正であったと認めます。 令和6年1月12日

監査: 小澤晃(印) 山本康昭(印)

学年同期会の活動・開催予定及び叙勲・褒章、役員・理事の逝去等についての情報確認を行いました。

議事終了にあたり、2月3日開催の総会・懇親会は4年ぶりに従来通りの開催とすることが発表され、昭和57年卒幹事団の土屋理事から挨拶がありました。

令和6年度 同窓会総会・懇親会

令和6年2月3日(土)午後4時より京成ホテルミラマールにおいて、母校の佐藤晴光校長、川俣正仁・大谷照久副校長、押塚法子教頭、古屋里江子事務主

幹をお迎えし、同窓会員278名が出席して、4年ぶりに通常開催いたしました。

川島事務局次長の司会で、林孝二郎会長の挨拶、佐藤校長先生より母校の近況報告を含んだご挨拶をいただき、その後1月20日に開催した令和6年度定時理事会で承認された各議案の報告

が阿佐幸雄事務局長及び岡田正大会計により行われ、総会は終了しました。

続いて還暦年度の昭和57年卒が運営する懇親会に入りました。会の冒頭、アトラクションとして千葉県立千葉中学校・高等学校合唱部による演奏が披露されました。1曲目に歌われた母校校



会務報告をする事務局



林同窓会長の挨拶



佐藤晴光校長のご挨拶



歌には涙ぐむ方々もおられる程素敵な歌声を聞かせていただきました。黙祷に続いて57年卒の吉田節子代表世話人挨拶、池田知行同窓会副会長の乾杯の音頭で、歓談となりました。

4年振りに飲酒・席移動OKの懇親会となり、参加者一同尽きることなくはずむ会話で大いに盛り上がりました。恒例の校歌は4年振りに斎藤喜久三、山本誠司両先輩によるトランペットを伴奏とした旧制千葉

中校歌、百周年記念レコードを伴奏にした千葉高校歌を声高らかに歌い、57年卒豊田聡代表世話人音頭により、千葉中・千葉高へのエールで締めました。最後に幹事年度の盾を、前回令和5年の総会で54・55年卒から受け取った57年卒吉田代表世

話人から次回還暦年度で幹事学年となる58年山下直行代表に引き継がれました。山下さんからは、来年も盛会になるよう準備を進めていくと、力強い挨拶がありました。(総会の写真はフォトグラファー佐藤憲一撮影)

(4) 2024 (令和6) 年度 同窓会会計 予算

令和6年1月1日~令和6年12月31日

I. 一般会計

1. 収入の部

(単位:円)

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 前年度決算額, 比較増減, 備考. Rows include 繰越金, 同窓会入会金, 寄付金, 会報寄付金, 名簿売上金, 雑収入, and 収入合計.

2. 支出の部

(単位:円)

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 前年度決算額, 比較増減, 備考. Rows include (1) 事業費, (2) 運営費, (3) 母校支援金, (4) 予備費, and 支出合計.

II. 同窓会基金

1. 収入の部

(単位:円)

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 前年度決算額, 比較増減, 備考. Rows include (1) 繰越金, (2) 特別収入, (3) 雑収入, and 収入合計.

2. 支出の部

(単位:円)

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 前年度決算額, 比較増減, 備考. Rows include (1) 一般会計への繰入金, (2) 事業費, (3) その他, and 次期繰越金.

# 葛城人

9

## 平井勇一さん (昭和63年卒)

JX金属(株)タンタル・ニオブ事業部管理部長

千葉高が創立されて140余年。葛城台から数多の卒業生が巣立っていったが、この「葛城人脈」では、今まさに活躍している卒業生へのインタビューを通じて、チャレンジ精神の源流に迫る。  
聞き手は東寿浩 (平成12年卒)

### クラシックギターと千葉高時代

— よろしくお願ひいたします。高校時代はクラシックギター部に所属されていたということですが、どういづきつかけられたのですか？

平井勇一(以下、平井) よろしくお願ひします。私は轟町にある愛隣幼稚園というキリスト教系の幼稚園に通っていたのですが、その園の中でヤマハ音楽教室をやっていたんです。小学校に入ってから千葉市役所前のコミュニティセンターに通って続きを習っていたのですが、10歳でそれが終わって、今度は何をやる？という話になり、もともと父親がギターを弾けたこともあって、子ども心に「ギターをやろうかな」と。そこからヤマハのギター教室に通い始めましたが、先生がヤマハを辞めて市原の八幡宿に教室を開いたので、中学生の時は八幡宿まで千葉から電車を通っていましたね。千葉高に入ったらギター部があって、上手い人も多

### 一橋大学合格と大学時代

— 満点ですか！ちなみに、志望校はどうやって決められたのですか？

平井 部活の先輩が一橋に入っただけで、楽しそうにされているのを見て、一橋がいいな、と思いました。幅広く勉強したくて社会学部を目指しました。

— そして無事に合格された。

平井 数学が本当にダメだったのですが、何とか受けました。

— そして大学に入られたわけですが、一橋といつと、千葉からは結構遠いのが、難易度とあわせて心理的ハードルにもなっているような気がします。

平井 そうですね。当時は1・2年生は小平で、3・4年生が国立でした。小平の間は千葉の実家から通っていましたが、国立キャンパスに進んでからは大学のそばにある中和寮というところに入りました。大学でもクラシックギターを続けて、結局今もアマチュアでギター演奏を続けています。大学2年の時に「学生ギターコンクール」で入賞できたのは良い思い出です。Youtubeで「hiraishain」という名前がギター演奏をアップしていますので、よかったら聴いてみてください。

— 社長経験者なのに平社員ですか(笑)。学業はどういった方向で？

平井 苗字が「ひらい」ですので

(笑)。ゼミでは田中克彦先生のもとで社会言語学を学んでいました。言語への関心を持っていたのは、その後の語学習得にも役立ったと思います。

### インターネットも通信カ ラオケも携帯もなかった

— そして就職ですが、入社されたのは日本鉱業(当時)。どういづきつかけられたか？

平井 今のようウェブでエントリーシートを書いて何十社も受けるという時代でもなく、大学の先輩に誘われて決めました。自分の関心としても、金融や商社よりもメーカーの方がいいだろうな、と思っていたので、そのまま入ったという感じですね。

— 最初の配属はどうなりました？

平井 大分東部の佐賀関(旧佐賀関町、現・大分市)の事業所でした。海の幸が豊富な所で、食べ物がいしかったですね。

— 地方勤務になったら現地の食文化をよく知りたかったですね。

平井 そうですね、当時は職場の飲み会なども多かったもので、よくカラオケスナックなどへも行きました。レーザーディスクの時代で、カラオケの曲を入れ替えたりもしました。

— 平成初期ですね。昭和の残り香も強かった時代ですね。

— まだ携帯電話もない時代ですね。

平井 NTTのいわゆる固定電話で彼女との電話もかけていたの、電話代がとんでもないことになっていました。

### 海外赴任の経験

— その後は神奈川へ。

平井 北茅ヶ崎にある東邦チタニウムを経て、東京に戻りました。ただ、東京勤務もつかの間、人事、財務をやってからマレーシアに赴任しました。

— 単身赴任ですか？

平井 そうです。しかもこの時に妻が妊娠していて、体調も今一つで、何も家庭に貢献できていなかったもので、せめてもの罪滅ぼしに妻の職場の近くのマンションを購入しました。

— ついに海外赴任ですね。マレーシアはクアラルンプールですか？

平井 パハ州のクアアンタンです。中国系の人が多い街なので、ムスリム文化圏ではなく、お酒などの自由度も高かったです。ただ、仕事では、プミプトラ政策(マレー人優遇政策)の影響で、オフィスの中には何人かマレー人を入れなければならぬという制限があって、一方で販売上は中国系の人が力を持っていたりするので、その



Profile

平井 勇一 (ひらい ゆういち)

1969年千葉市穴川の生まれ。轟町小、轟町中を経て千葉高に入学。学業よりは部活(クラシックギター部)に軸足を置いた高校時代を経て、一橋大学社会学部に入社。大学ではさらに部活(ギター部)に軸足が移り、ギター音楽に一層没頭。大学卒業後、1992年に日本鉱業(現・JX金属)に入社。人事系職種を振り出しに、総務・財務・経営企画・海外駐在等、多岐に亘る職務を経験。2017年には千葉高OB・OG座談会で「企業で働くということ」と題し、転勤や異動の多い自らのサラリーマン人生を題材にミニ講演を実施。現在、JX金属(株)タンタルニオブ事業部管理部長。趣味はギター演奏のほか、鉄道の旅、お酒など。

調整が結構難しかったですね。  
—その後はペルーにも赴任されましたね。

平井 首都のリマに住んでいますが、鉱区はアンデス山脈の中にあつて、標高が4300メートルもありました。そこに行く途中には標高4800メートルの峠越えもあり、酸素が薄すぎてフラフラになりましたね。

—なかなか厳しい気候ですね。しかも、ペルーはスペイン語ですよ。言葉を覚えるのも大変そうですね。

平井 そうですね。この時初めて現地法人の社長を経験したのですが、スペイン語はペルーに行くまで全く知らなかったのが、東京で20時間くらいペルーに通わせてもらいました。

—たったの20時間ですか！

平井 赴任の2か月前に内示されて、それから引継ぎやら準備やらに色々時間がかかってしまい、それくらいしか時間がなかったの

で、現地で先生を見つけて勉強したりしました。マレーシアは英語で何とかなつたのですが、ペルーはそうはいかず、スーパーなどで買い物をする時にもやはりスペイン語が必要。頑張るしかなかった

ですね。だから、現地に赴いて随分日本人同士で、会社を超えて随分仲良くなりました。アウェイの環境で、同じ言語を話せる人ってやはり安心感があるわけ。

—そうすると、現地の人のマネジメントをするのも結構大変ですね。

平井 英語ができるスタッフもいたので、実際のところは英語で仕事をしていることも多かったですね。ただし節目節目のスピーチなどは、なるべくスペイン語でする

ようにしていて、原稿作成をした後、日本語とスペイン語に通じた日系人のスタッフにチェックをお願いしていました。

—今なChat GPTよね。

ドキュメンテーションは事務職最大のスキル

—東京に戻られてからはどうでしたか？

平井 JXTGホールディングスに出向して、経営企画部で仕事をしました。今まで金属の会社だったので、文化の違い石油の会社の人相手に仕事をするというのなかなか大変でしたね。

—金属と石油ですか。常に異文化が相手ですね。

平井 31年で12回も転勤しているのですが、いつも違う文化の人が相手ですね。会社名自体も何度も変わりました。JXTGへの出向も

1年半で終わって今度は関西のタツタ電線に出向。3年近くいきましたが、ここで初めて部長を経験しました。最初は不慣れで、予算の説明にしても、見様見真似でシナリオ通りに話すしかないとところからのスタートでした。とにかく、事業の状況について、文字で表現する力が大事だな、と。仕事を進めるにあたって、書かれなかつ

たものは、無かったことに等しいのです。書かれて、承認されたことが組織の中で意味を持つわけなので。

—しかも伝わるように書かねばならないですね。

平井 結局皆時間がないですから、全部読むわけにもいかない。要点は何なのか、相手のことを慮って、わかりやすく伝えることが大事です。そしてスピードがとにかく大事。何か聞かれてから出すのでは今一つで、自発的にどんどん出していかなければならないと思います。あとは型を身につけること。

事務系の「手に職」と言えるスキルは、やはりドキュメンテーションにあると思います。事象をいかにうまくまとめて表現するか、そのスキルに磨きをかけていくことに大きな価値がありますね。

ゼネラリストかスペシャリストか

—そしてついに日本の関係子会社で社長になられたと。

平井 そうですね、従業員30名あまりの関係会社の「雇われ社長」ですが(笑)。ただ、小なりとはいえないところからのスタートです。人事育成上で非常に有効だと思います。中期計画を作って、リードして、責任者としてやっていく経験はいい勉強になりました。皆が皆経験できることではないので、

機会に恵まれたことは非常に有難かったです。

—敦賀で社長をされていましたが、本社と離れた場所だからこそ経験できることありそうですね。

平井 自分の判断で地元とどう関わっていくかなどを決めていくというとてもいい勉強になりました。

—しかし、この前社長になつたばかりなのに、また異動と。

平井 何かやらかしたわけではないですよ(笑)。確かにスペシャリティが深まりにくいというデメリットもあります。色々な仕事に関わることができたこと、実際に多くの人と出会えたことはサラリーマン人生で得られた、かけがえない財産だと思います。

—ゼネラリストとスペシャリスト、どちらがよいか悩みますよね。

平井 自分では決められないことも多いですし、めぐりあわせもあると思います。それでも、潰れずに、腐らずに、続けることで花開くものはあると思います。

—ますます重責を担われることになるかと思いますが、ご活躍を祈念しております。

平井 ありがとうございます。そうそう、今度の部署に千葉高の30年後輩の女性がいたのは嬉しい驚きでした。職場では彼女のほうが先輩なので、日々、色々教えてもらっています(笑)。

—ありがとうございます。

# 令和6・7年度 本部役員

☆は新任

会長 林 孝一郎(昭39)  
副会長 森 茂(昭44)

戸谷 久子(昭46)  
先田幸次郎(昭49定)  
池田 知行(昭54)

顧問 ☆高梨 祐介(学校長)  
監査 山本 康昭(昭38)  
小澤 晃(昭41)

《事務局》  
事務局長 阿佐 幸雄(昭35)  
事務局次長 川島 康行(昭58)  
事務局会計 ☆中川 朱理(平12)  
☆岡田 正大(平30)

《常設委員会》  
総務委員長 上原 和男(昭46)  
総務副委員長 ☆大澤 正明(昭55)  
名簿委員長 沢田 茂(昭40)  
名簿委員 ☆御園生 博文(昭54)  
企画委員長 豊田 聡(昭57)  
企画副委員長 東 寿浩(平12)  
広報委員長 田中 航祐(平20)  
広報副委員長 土屋 保之(昭57)

※この他、参与の方々や事務局員等  
多くの方がおります。

## ◆学校の近況報告

編集後記に代えて

同窓会広報委員長

主幹教諭 田中 航祐

(平成20年卒)

千葉高校同窓会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。非日常が日常になってしまいうようにも感じられたコロナ禍体制も令和5年の1学期で終わりとなり、学校生活においての制限もなくなり、これまでの鬱屈した雰囲気から解放されるような期待と躍動感を感じた1年となりました。

日々の授業や行事においては、コロナ禍の時のような制限なく、充実した内容を企画することができました。しかし、内容をただコロナ前に戻すのではなく、コロナ禍での経験をいかした取り組みも随所に見られました。例えば、ICT活用、デジタル化の推進ということで、授業や日々の連絡において、Microsoft Teamsを使った連絡や学習活動が浸透しました。また、文化祭において、文化祭実行委員会の生徒たちの挑戦により、電子決済の導入も実現しました。加えて、卒業生の方々から生徒たちへ御講演をいただく貴重な企画をさらに充実させることができたことも嬉しく思っております。振り返ってみれば、卒業したばかりの若手の先輩から、人生経験豊富なベテ

ランの方まで様々な卒業生の方々に御協力をいただいております。総合的な探究の時間の成果の発表、社会人講演会、高2生の修学旅行先での京大生による懇談会、東大見学会での案内、金融機関勤務の先輩方による金融リテラシー講演会、千葉大医学部生による医学部相談会、現役大学生による学部学科説明会など、様々です。

大人になる時期である高校生にとって、将来どのような生きるかという悩みは尽きません。私は生徒たちには、先のことや就きたい仕事などをあまり決めつけすぎないで、自分の興味関心を大事にしつつ、色々な人や考えに出会って過ごしてほしいと思っています。しかし、生徒たちが会おう身近な大人が、家族と教員だけでは、物事の見方・考え方は深まりません。家族でも、先生でもなく、日頃会う事のない、でも、千葉高生の悩みはよく知っている同窓生の方々に直接お話しをいただくことは、貴重な機会と考えております。こうした関わりは、オンライン授業や生成AIでは決して代替できないことだと思います。これから、学



高2生 修学旅行 京大生の先輩との懇談会



文化祭

校が、このようなつながりの場となり、同窓会の皆様の母校、先輩への思いや社会での経験と生徒たちとがつながる場であり続けますように尽力したいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

## 葛城だより

### ◎令和5年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

- 瑞宝双光章 阿部 猛(昭28)
- 旭日双光章 水野 幸一(昭31)
- 瑞宝双光章 天野 一秀(昭41)
- 瑞宝小綬章 古川 光一(昭41)
- 旭日双光章 坂本文夫(昭44)
- 瑞宝小綬章 森 茂(昭44)
- 瑞宝双光章 浦野 孝一(昭58)

(敬称略・卒業年順)

### ◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈り致します。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

- 白井 進(昭22) 5年3月28日
- 日暮 清(昭25) 5年10月5日
- 清宮春男(昭27) 5年12月
- 山本義春(昭28) 4年7月
- 千葉昭雄(昭31) 4年9月
- 鈴木一郎(昭35) 5年9月30日
- 土岐紘史(昭35) 6年1月17日
- 恵藤敏郎(昭43) 5年3月24日
- 石川 栄(昭46) 4年6月20日

(敬称略・卒業年順)

### 題字揮毫 辻元大雲氏

本名：洋一 昭和37年卒